



千葉大学医学部同窓会報 第159号 題字 故鈴木五郎(大11卒 元るのな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 るのな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/

年頭のご挨拶

るのな同窓会長 伊藤晴夫(昭39)



るのな同窓会の皆様、明けましてお目出度うございます。

昨年は東日本大震災という戦後最悪の自然災害が東北・関東地方を襲いました。また、人災とも云える福島第一原発の事故が発生しました。こちらは未だに収束への道も険しく、日本全体に暗い影を落としております。しかし、日本人の辛抱強さと復興への努力に曙光を見る思いがします。千葉大学からも多数の方々が現地での救援活動等に従事されました。なお、るのな同窓会では会員からの浄財も加えて、被災されました会員にささやかですがお見舞いをさせて頂きました。一日も早い全面復旧をお祈り申し上げます。

療系部局が集結され、医学部、附属病院を中心にする。千葉大学医学部は首都圏の人口が増えている数少ない県に位置し、その極めて有利な立地を最大限活用して戴きたいと考えます。千葉大学るのな同窓会の目的は、第一に会員の親睦と医道の高揚であり、第二には医学部の支援であります。同窓会活動の中心となるるのな同窓会報は、前号より印刷所を千葉日報社へ変更いたし、紙質も向上しました。広告の増加ともあわせ、経費の大幅な節減にもつながりました。会報と並んでホームページも充実してきました。皆様方、特に若い会員の積極的な参加をお願いいたします。

さて、現在の最重要課題は、千葉大学医学部創立135周年記念事業であります。募金に關しましては日本経済が大変厳しい状況であるにも拘らず、多くの皆様方から多額のご寄付を戴きました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。135周年記念誌は現在印刷作業中であり、もうすぐお手元にお届けできるものと思えます。



新るのな同窓会館設立の第一期工事として計画した同窓会事務室、多目的ホール、合宿施設を中心とした建物の見取り図等は前号までにご報告した通りです。この原稿執筆時点で大学が施工会社を選定している段階であり、順調に進めば、本年2月頃には着工され、年末竣工の予定です。

会館内に掲げる、ご寄付を賜った皆様方のご芳名を刻した銘盤のデザインも近日中に発表されます。新会館は、亥鼻キャンパスの中心に位置しており、同窓会員はじめ広く学内外の皆様にご利用して戴ければと思います。なお、第二期工事の目標としましては、資料室などを中心とした同窓会・医学部のシンボリックな建物と考えられますが、今後皆様のご意見を良く伺いながら実現を期したいと思います。

現在常任理事会等で検討されている事項の内、重要なものには、評議員会の活性化、同窓会賞のあり方の見直しなどがあります。以前より課題とされておりまして若い会員に魅力のある同窓会とするために何を為すべきか皆様のご意見をお聞かせ戴ければ幸いです。

最終講義

のご案内

環境影響生化学

鈴木 信夫 教授

日時 平成24年2月3日(金) 午後4時

場所 医学部本館第一講義室

演題 「無から有を生む生命科学探求の45年間 ―ヒトSOS応答生体機能の創成および放射能汚染調査の残照―」

薬剤部

北田 光一 教授

日時 平成24年2月17日(金) 午後3時

場所 医学部附属病院第一講堂(3階)

演題 「薬剤部での20年間」

麻酔学

西野 卓 教授

日時 平成24年2月22日(水) 午後3時

場所 医学部附属病院第一講堂(3階)

演題 「呼吸調節研究への道―マイ・ウェイ―」

総合安全衛生管理機構

長尾 啓一 教授

日時 平成24年3月8日(木) 午後4時10分

場所 けやき会館

演題 「けんしんをめぐって」

祝叙勲・褒章

平成23年

瑞宝双光章

土屋 恵一(信州大・昭36)

紫綬褒章

清野 進(神戸大・昭49)

平成23年 表彰

厚生労働大臣賞

石毛 忠雄(昭34)

日本医師会優功賞

井上 雄元(金沢大・昭39)

第13回るのな同窓会学外研究助成決定

2011年度るのな同窓会学外研究助成は次の方に決定いたしました。

中村 紘規

(群馬県立心臓血管センター、循環器内科、山梨医科大学)

「持続性心房細動に対する高周波カテテルアブレーションの治療戦略」肺静脈隔離術と右肺静脈・僧帽弁輪間の左房線状焼灼術の有効性に関する検討」

紙面紹介

年頭のご挨拶	1
就任のご挨拶	3
受章のご挨拶	5
東医体	6
各地るのな会	7
クラス会	8
追悼文	11
美術展	12
学内情報	13
雑文雑談	15
研修プログラム	16
研修医だより	17
著書紹介	18
会員から	19
体験記	20
オンライン会報	21
インタビュー	22
クリニック紹介	23
会館設立	24
編集後記	25
	26
	31

新年の挨拶



なのはな同窓会副会長

大井 利夫 (昭35)



卯年の平成23年は、とてもない暴れ兎の年になってしまった。3月11日の東日本大地震は、大津波と東京電力福島第一原発の事故を伴って千年に一度といわれる大災害を引き起こし、さらに夏には「頑張ろう日本」と懸命に立ち直ろうとする日本列島を台風12号と15号が直撃した。東日本大震災の死者・行方不明者は2万人に近く、ピーク時の避難者は40万人を超えたという。今なおふるさとに帰れない人も多く、犠牲者の方々のご冥福と被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。なのはな同窓会員にもご自宅や診療所を損壊された方がおられ、同窓会としても出来るだけの支援を呼びかけ実行してきました。しかし、この活動は今後被災地が完全に復興するまで続けられなければならない。地域の復興には、そ

の具象化に努めることが求められている。そうした中であって、なのはな同窓会には多くの会員の協力を得て着実に歩みを進めてきた。長年にわたり同窓会員の願いであった千葉大学医学部創立135周年記念事業としての「新なのはな同窓会館」も、今年末には竣工する見通しとなった。同時に「千葉医学の伝統言語化(見える化)プロジェクト」も、平行して検討されてきた千葉大学医学部の協議を経て語句・文音が決定することになっている。さらに会員参加がより一層図られるように同窓会組織の改革を討議する委員会が組織され、評議員制度

を中心を検討されてきている。それらはいずれも「同窓会員の絆」を確認し深めることに役立つに違いない。今回の大震災は、全ての

の人に十重二十重につながる「絆」の大切さを教訓として残した。その教訓を受けて、なのはな同窓会も今まで以上に「同窓会の共同体理念の高揚」と有形無形の「場の形成」に努めていきたい。年頭に当たり、そのことを意識したいと思う。

平成24年が、なのはな同窓会にとっても 霊獣竜天空に昇り自在に飛翔する例えのごとく躍進の辰年になって欲しいと願っている。

平成24年(2012年)を迎えるにあたり、一筆啓上させていただきます。

なのはな同窓会副会長

済陽 高穂 (昭45)



平成24年(2012年)を迎えるにあたり、一筆啓上させていただきます。

新年お目どうございませう。21世紀もはや10年を過ぎました。19世紀に勃興した「パスツール医学」に代表される科学的近代医学は感染症の克服、タブーとされた心臓や脳外科手術の確立、移植医療の実現など目

を乗り越えてきました。19世紀に勃興した「パスツール医学」に代表される科学的近代医学は感染症の克服、タブーとされた心臓や脳外科手術の確立、移植医療の実現など目

省期に入り、現在では内視鏡手術やステント術など低侵襲治療が導入されています。

一方、先進諸外国ではがん死亡者が20世紀末から減少傾向を示しているのに対し、日本人での死亡原因は、昭和56年以降がんが第一位を独走して増加し続けています。この違いはひとえに諸外国が医療界を中心に、国民の栄養指導を強力に実施していることにより、すなわち過去30年来、ハンバーガーなどの高カロリー・ジャンクフードに警鐘を鳴らし、医学部における臨床栄養教育を充実させていることと大いに関連しています。

米国の例を挙げると、1985年政府団体から医学部において最低25時間の臨床栄養教育を要する旨の勧告がなされ、NANA (Nutritional Academic Award) 『医科栄養学プログラム』と称する医学部教育プログラムが実施されて、NIHから全米128医科大学に対し、年間数億ドル(400~500億円)が拠出されております。また、この間99年には医学士協会から逆に、独自の希望する医科栄養学カリキュラムが検討されており、括目すべき

とあります。官学一体となり、今日のがん死亡削減の実現をみているわけです。私は永年外科医としてがん医療に携わってきましたが、近年視点を變えて『がんも生活習慣病』との考えのもとに、『医科栄養学』を基盤として諸外国のように患者さんに対して栄養・代謝指導を加えることによりがん治療成績の向上をみております。また「世界がスタンダード、患者の自然治療力を引き出すのが医者

の役目」の言葉をいつも口にされていた恩師の中山恒明教授の仰せ通り診療に心がけております。

わが千葉大学医学部は、永年伝統的に優秀な研究者と臨床医を輩出し続けてきました。今年には念願の新しいなのはな同窓会館も竣工の運びです。今一度医療の原点に立ち、患者の望む医療、期待に応える治療成績を目指して医学部と病院が発展することを期待しております。

なのはな同窓会副会長

鈴木 信夫 (昭47)



平成24年(2012年)を迎えるにあたり、一筆啓上させていただきます。

平成24年(2012年)を迎えるにあたり、一筆啓上させていただきます。

の役目」の言葉をいつも口にされていた恩師の中山恒明教授の仰せ通り診療に心がけております。

わが千葉大学医学部は、永年伝統的に優秀な研究者と臨床医を輩出し続けてきました。今年には念願の新しいなのはな同窓会館も竣工の運びです。今一度医療の原点に立ち、患者の望む医療、期待に

を乗り越えてきました。19世紀に勃興した「パスツール医学」に代表される科学的近代医学は感染症の克服、タブーとされた心臓や脳外科手術の確立、移植医療の実現など目

を乗り越えてきました。19世紀に勃興した「パスツール医学」に代表される科学的近代医学は感染症の克服、タブーとされた心臓や脳外科手術の確立、移植医療の実現など目

を乗り越えてきました。19世紀に勃興した「パスツール医学」に代表される科学的近代医学は感染症の克服、タブーとされた心臓や脳外科手術の確立、移植医療の実現など目

を乗り越えてきました。19世紀に勃興した「パスツール医学」に代表される科学的近代医学は感染症の克服、タブーとされた心臓や脳外科手術の確立、移植医療の実現など目

湧水です。天からのひと滴の水が多くの仲間と共に、長年地中で培った滋養を携えて再び現れるのです。自然の摂理とでもいふべきこの現象を深く胸にきざむべき時代のようです。

もう一言、私事を添えるならば、放射線影響に関しても研究をしております。昨今は、放射性物質の除染策にも苦慮しているところですが、水については何とかなりそうです。ところが、問題は土です。水を養っている土壌こそが、最難関なのです。強力な吸着力には、並大抵の努力では対抗でき

ません。しかし、それにしても水と土、なのはな同窓会を思うに、大変参考となる環境要素です。

最後に一言。宇宙生命科学・ストレス科学・食品栄養学など、千葉大学大学院医学研究環境影響生化学における多岐にわたる研究生活をおける3月をもって終焉させる身から、今後は、なのはな同窓会で何がしかのお役に立てば幸甚と存じます。被災された会員の方々のみならず、会員皆様に本年が良き年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

だった方のほとんどは名誉職に移っています。もう76歳ですからそれが当たり前の歩みでしょう。

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の所長は国の省庁再編の関係から早急に切り上げて浪人をしていましたが、お誘いを受けた岐阜県関市にありまして、中部学院大学大学院に勤務することになって10年、そろそろ現役引退を考えていたところに学長としてきてくれたというオファーがありました。私のなをつかんでくださったこのオファーにつながったのは、まだまだわかりませんが、新米学長として奮闘中です。

す。ともかくも就任した4月1日は、理事長から辞令をいただくなりそのまま全職員に辞令交付をするという羽目に陥り、どなたの顔も名前もわからないままひとりずつ辞令をお渡ししました。翌日の4月2日は入學式、そこでは学長としての歓迎の言葉を伝えなければなりません。考えた末に「『このころを育てる』大学にしたい」と新入生にもその保護者にも語りかけました。新入生には「このころを育てるのは自分だ」と話し、保護者には「大切に育ててこられたお子さま方のこのころを育てるお手伝いをしてほしい」と告げ、さらに並み居る教職員やマスコミの方々に向け「このころの育った学生たちを社会に出す準備をしてほしいし、社会はその学生たちを受け取ってほしい」と語りました。

二つの大学の学長なので合同してやる行事のときはともかく、多くの場合、たとえば教授会などの会議などは別々に行われます。それだけに学長は大忙しです。後学期（本学では秋学期と呼んでいます）に入り、精神医学・精神保健学の授業を始めましたので学生と面と向かってつきあうよう

になり、ちょっとほっとしているところですが。長野県には千葉大学医学部出身者が数多くおられます。その昔、戦時医専である千葉大学医学専門学校在南信に疎開していたこともあり、その関係でしょう。私自身も南信の駒ヶ根市に

あります県立駒ヶ根病院に勤務したことがあります。この欄で呼びかけるのは適当ではないかもしれませんが、長野にゆかりのある千葉大学医学部出身の先生方からのご支援をころからお願いするものです。

創薬科学に貢献する人材を数多く育成するために、今後、高品質の基礎研究や臨床研究を活発に進め、その結果を世界に発信することで医療の発展に還元したいと考えています。また、モチベーションを向上させ維持できるような研究体制を確立し、研究マインドを有する大学生、大学院生を数多く育成するために、自身の研究経験も生かして、研究の楽しさを積極的に伝えていきたいと思っております。

千葉大学大学院薬学研究院

分子心血管薬理学

教授 高野 博之 (昭62)



平成23年7月1日付けで千葉大学大学院薬学研究院分子心血管薬理学に赴任いたしました。今年、千葉大学薬学部は創立120周年を迎え、9月に亥鼻キャンパスへ完全移転しました。千葉大学亥鼻キャンパスは、医学・薬学・看護学が集結した医療の総合アカデミアとして今後、益々の発展と飛躍が期待されます。このよう重要な節目に薬学研究院の教授に任命されたことにその責任の重さを痛感しております。

千葉大学医学部附属病院循環器内科在職中は、診療・教育の他に循環器病学の基礎研究および臨床研究を行ってきました。循環器疾患の成因や病態については不明な点が多く、新たな治療法を開発するためにはトランスレーショナルリサーチをおこなう必要があります。これは基礎研究により新規治療薬の作用や分子機序を解明し、臨床試験で効果や安全性を十分検証していく研究のことであり、今後ますます盛んになる研究分野の一つです。私はこれまで新たな心不全治療薬の開発のために、複数のトランスレーショナルリサーチを実施してきました。医療の担い手としての高い資質を持つ薬剤師や生命科学、

薬剤師の育成は薬学部における重要課題の一つです。医療人としての技能や態度を習得してもらい、患者中心のチーム医療の実践や薬剤師としての責任感を養うためには、実務実習を通して実際の医療現場を体験することが重要です。昨年からは本格的にベッドサイドラーニングを開始しました。ご尽力いただいた医学部および附属病院の先生方に厚く御礼申し上げます。まだまだ改善すべき点は多く残されており、今後も先生方のご支援をいただきながら、薬学部のスタッフが一丸となって充実した実務実習システムの構築を目指してまいります。人間性豊かで患者の気持ち理解できる薬剤師、幅広い視野を持

就任挨拶

大学学長就任記

「このころを育てる」をキーワードに

清泉女学院大学学長

吉川 武彦 (昭36)



きわめてまじめにご報告するならば、思いがけないきっかけから長野市にある

清泉女学院大学学長・清泉女学院短期大学学長にこの4月から就任し、すでに6ヶ月が過ぎましたとご報告すべきでしょう。昭和36年卒、いわゆる三六会のメンバーで、臨床をやっている同級生でも開業している方はまだ現役ですが、勤務医

ま勤務するような大学・短大の宿命でしょう。ただ、私はせつかくこの大学・短大にお招きを受けたのですから、千葉大学医学部精神医学教室でたたき込まれた「このころを大切に育つ臨床医」としての自分を、この大学運営に注ぎ込んでいきます。ちなみにそのキーワードは「このころを育てる」で

です。二つの大学の学長なので合同してやる行事のときはともかく、多くの場合、たとえば教授会などの会議などは別々に行われます。それだけに学長は大忙しです。後学期（本学では秋学期と呼んでいます）に入り、精神医学・精神保健学の授業を始めましたので学生と面と向かってつきあうよう

になり、ちょっとほっとしているところですが。長野県には千葉大学医学部出身者が数多くおられます。その昔、戦時医専である千葉大学医学専門学校在南信に疎開していたこともあり、その関係でしょう。私自身も南信の駒ヶ根市に

あります県立駒ヶ根病院に勤務したことがあります。この欄で呼びかけるのは適当ではないかもしれませんが、長野にゆかりのある千葉大学医学部出身の先生方からのご支援をころからお願いするものです。

創薬科学に貢献する人材を数多く育成するために、今後、高品質の基礎研究や臨床研究を活発に進め、その結果を世界に発信することで医療の発展に還元したいと考えています。また、モチベーションを向上させ維持できるような研究体制を確立し、研究マインドを有する大学生、大学院生を数多く育成するために、自身の研究経験も生かして、研究の楽しさを積極的に伝えていきたいと思っております。

高い臨床能力を有する薬剤師、主体性を持ち生涯にわたって自ら考え判断ができる薬剤師、地域医療や高度先進医療にも積極的に貢献できる薬剤師を数多く育成したいと思います。

与えられました使命を十分認識し、薬学部と薬学研

獨協医科大学産科婦人科学

教授 深澤 一雄 (昭55)



平成23年4月1日付けで稲葉憲之前任教授の後任として獨協医科大学産科婦人科学講座を担当させていただきますことになりました。

私は昭和55年に千葉大学医学部を卒業後、当時高見澤裕吉教授の産科婦人科学教室に入局し1年間研修の後、癌研究会附属病院婦人科に2年半出張致しました。帰局後は麻酔科研修、ドイツゲッテンゲン大学病理学教室への留学を経て、千葉大学産婦人科講師として平成7年3月まで務めました。その後沼津市立病院第二産婦人科部長を1年間

病院の教育・研究に誠心誠意努力し、医学および薬学の発展のために全力を尽くしたいと思えます。今後とも千葉大学のみはな同窓会の皆様の一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

務めた後、稲葉主任教授ご就任より遅れること1年、平成8年4月に獨協医科大学へ産科婦人科学講師として着任し、翌9年4月より

助教授、16年11月からは学内教授として勤務してまいりました。

獨協医科大学は昭和48年に開学、翌49年に大学病院が開院致しました。同窓の教授には、故堀江昌平名誉教授(昭23)、故安村美博名誉教授(昭26)、故下沢淳海名誉教授(昭31)、上山滋太郎名誉教授(昭33)、故嶋田晃 郎名誉教授(昭37)、丹羽章名誉教授(昭38)、安田耕作名誉教授(昭42)、崎尾秀彰名誉教授(昭44)、稲葉憲之学長・名誉教授(昭47)、福田健教授(昭48)、今井裕教授(神南大昭48)、堀雄一教授(昭52)、

兵頭明夫教授(昭52)、旗持淳教授(川崎医大昭53)、山西友典教授(昭57)、安西尚彦教授(平2)がおります。開院以来着々と発展し、稲葉教授ご就任後は平成9年総合周産期母子医療センター、平成13年光学医療センター、平成14年救命救急センター、また稲葉病院長時代に平成16年とちぎ子ども医療センター、平成17年PET/CTセンター、平成18年腫瘍センターが

次々と開設され、北関東における先進医療を担う特定機能病院として日々邁進しております。

産科婦人科学講座は昭和49年初代故橋口精範教授、昭和54年第2代熊坂高弘教授により基礎、土台が築き上げられ、平成7年第3代稲葉憲之教授により発展され今日に至っております。

現在腫瘍、周産期、感染症、不妊・内膜症、思春期・中高年その他、産科および婦人科領域全般の疾患を、高い専門性をもって扱う診療体制が構築されております。

私の専門は腫瘍学で、これまで婦人科腫瘍における腫瘍マーカーの基礎的・臨床的検討を研究テーマとしてまいりました。昭和62年、当時の稲葉講師直接ご指導

のもと「婦人科癌における腫瘍マーカーの研究―血清学的検査並びに免疫組織学的検査」と題する学位論文を発表しました。また当時第二生化学の鈴木信夫先生(現環境影響生化学教授)よりご指導いただきました細胞培養の技術を用い、獨協医大着任後は抗癌剤抵抗性で予後不良な卵巣癌培養細胞株の樹立に成功し、基礎研究の緒につくことができました。

東邦大学医療センター佐倉病院

糖尿病内分泌代謝センター

教授 龍野 一郎 (昭57)



平成23年8月1日付で東邦大学医療センター佐倉病院糖尿病内分泌代謝センターの教授を拝命いたしました。

私は昭和57年に千葉大学を卒業し、学生時代に講義を聞いて感銘を受けた故熊谷朗先生(富山医科薬科大学名誉教授)が主催されておりました千葉大学医学部第二内科に入局させていた

今日の私が在りますのはすばらしい指導者、よき先輩や後輩たちに恵まれたお蔭と感謝しております。今後は産科部門の教授、婦人科部門の教授とともに医局員一丸となりまして、教室ならびに獨協医科大学の更なる発展と地域医療に貢献してゆく所存です。今後とも同窓の先生方の相変わらずのご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

だきました。その後、熊谷朗先生は富山医科薬科大学副学長に転出され、後任として吉田尚教授(千葉大学名誉教授)が赴任されております。私は第二内科

の基本方針である general concept 育成の理念に従い松戸市立病院での一般臨床研修を終え、田村泰前助教授(前茅ヶ崎徳洲会病院長)の下で内分泌代謝学の研究に入っております。その後、吉田尚先生の御推薦をいただき、平成元年(昭8)から米国ニューオリンズ市に

ありますチュールンズ大学の故有村章教授の下で、3年

半にわたって神経内分泌・神経科学の研究に従事させていただきました。帰国後1年間、鹿島労災病院に出張し、その後は神経内分泌から骨代謝・副腎疾患まで細胞内情報伝達機構の観点から内分泌代謝学の幅広い分野に視野を広げ研究に専心させて頂いております。

平成6年(昭14)に吉田尚先生が東京都立駒込病院院長に転出され、その後、齋藤康教授(現千葉大学学長)が山形

大学から戻られ、講座を主宰されました。平成10年(昭18)には平井愛山前講師(現千葉県立東金病院院長)が転出され、齋藤康先生から内分泌研究室をお預かりし、講師に昇任させていただきました。

平成19年(昭17)から准教授を務めさせていただいております。平成20年(昭18)には齋藤康先生が千葉大学長に就任され、選挙事務局長として学内外の諸先生方に大変お世

話になりましたことは素晴らしい思い出として記憶に残っております。千葉大在職中、13年にわたり研究室をお預かりし、多くの仲間を集い、多数の専門医・研究者を育ててこられましたことは諸先輩方のご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、東邦大学医療センター佐倉病院は千葉大学と関連も深く、多くの先輩たちが在職されております。糖尿病内分泌代謝センターは私の先輩であられます前任教授の白井厚治先生(東邦大学名誉教授・昭48)によつて育てられ、肥満症治療センターとして国内屈指の診療実績を誇り、精神科を含めたチーム医療を特徴とし、最近では先端医療として肥満外科治療も盛んにおこなわれています。今後はこの肥満治療センターの機能の充実とともに、私の経験してまいりました下垂体・甲状腺・副腎・骨代謝など総合的な内分泌代謝センターを育て、研究の発展とともに後輩の育成に努めて行きたいと思っております。同窓会の皆様にはこれからもご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



大阪大学大学院医学系研究科

放射線治療学講座

教授 小川 和彦(平3)



ゐのはな同窓会の先生方におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。この度、平成23年12月1日付けをもちまして、大阪大学大学院医学系研究科放射線治療学講座教授を拝命いたしました。私をご指導下さいましたすべての皆様方に、この場を借りまして、心より感謝申し上げます。

私は平成3年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学医学部放射線医学教室に入局いたしました。ここでは、有水昇教授(昭29)のご指導のもとで放射線医学全般の研修を行っております。平成4年10月から琉球大学医学部放射線医学教室へ異動となり、中野政雄教授(昭30)のご指導のもとで放射線治療学全般の研修をいたしました。特に、頭頸部腫瘍、子宮頸癌に対する放射線治療は中野教授のご専門であ

り、これらの疾患の放射線治療について中野教授から直接ご指導をいただけたという幸運に恵まれました。そこで身につけた臨床が、現在の私の放射線治療の診療における基礎となっております。その後、平成15年から16年にかけて九州大学生体防御医学研究所分子腫瘍学分野において分子腫瘍学の研究、平成17年から平成18年にかけてハーバード大学マサチューセッツ総合病院放射線腫瘍科で放射線生物学の研究を行なっております。琉球大学在学時には千葉大学の先輩であられる古謝景春教授(昭39)、高良宏明教授(昭44)、吉井與志彦教授(昭44)、兵頭明夫准教授(昭52)(当時)にも多大なご指導をいただきました。特に、吉井教授からは、臨床、研究、教育についての心構えについてきめ細かなご指導をいただくことができました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

私は現在までに、放射線腫瘍学、分子腫瘍学、放射線生物学に関連した臨床研究と基礎研究を行ってきました。EBMに基づいた放射線治療法の確立を目指して、Prospective, Retrospective 両面からの研究を行なっており、また基礎研究においては放射線感受性を規定する因子を検討するために放射線治療前における遺伝子・蛋白質発現状況の検討を行なってきました。今後とも、教室・関連施設等の共同臨床研究や基礎研究を通してエビデンスを創出して、世界へ向けて標準治療を発信していきたいと考えております。教育面に関しては、現在までに医学部学生及び若手医師に対して、放射線治療の内容や実践について十分に理解してもらうように指導を行ってきました。今後とも若い優秀な方達に放射線治療の魅力を伝えることができるような教育を行い、次世代を担う質の高い放射線治療を育成していきたいと考えております。臨床面においては、現在までに放射線治療を受ける方の利益を最大限に考慮した治療を行うことについて配慮してきました。今後とも、時代の要請に応える質の高い医療を提供し、患者利益を最大限考慮した治療を行うことを目指して

受章の挨拶

旭日双光章

受章にあたって



いきなると考えております。現在の日本においては、癌患者の増加、放射線治療技術の進歩、放射線治療の有効性が日本においても浸透してきたこともあいまって、放射線治療は今後益々発展することが期待されて

嶋田 勉(専25)

8月15日になり、軍隊は無くなってしまう。先輩方の話によると毎月30円から40円貰えて1月に1ないし2回の講習にできればよいとの事であった。当時は小学校の先生方の初任給は70円位、私は進路を変えたいと思った。建築家か研究者になりたかった。しかし人間はいつもいるのだから、今更変えるのは面倒だというのが本心であった。そのまま医師になった。インターンは国立千葉病院、鈴木五郎先生(外科)三輪清三先生(内科)と元軍医の奥田邦雄先生(内科)方がおられた。

葉医大病理学教室に研究生として入室、滝沢延次郎、岡林篤教授の指導を受けた。病理学教室在籍中に結核を発病し、フルブライト法によるアメリカ留学は諦めた。同級生の林豊先生が渡米した。研究生生活は諦め郷里旭市で開業医として妻(眼科医)と生活することになった。昭和34年5月医師会に入会させてもらった。入会させてもらったからには頼まれた仕事はやるようにした。地域の学校医、産業医、旭市海上郡医師会長その他役員、県医師会国保審査委員、県医師会認定委員、現在は旭医師会の議長を務めている。

当時、旭市では地区の医師会の反対運動にも関わらず、昭和28年国保旭中央病院が創設された。初代院長諸橋芳夫先生は滝沢教授の東大助教時代の教え子であった。諸橋先生は滝沢教授室に日参して病理解剖を希望していた。病院のレベルをあげるのには病理解剖しかないと考えていたようである。旭で開業するならば病院の面倒を見てやれと滝沢教授から言われた。開業する前に病院の外科手術室でガス壊疽の解剖をしたことは忘れられない。開業しながらの解剖は夜中仕事であった。

現在、旭中央病院は全国有数の剖検率を誇る病院となり若い医師達の研修病院としての価値を高めているようである。

私は諸橋先生より10才若い。このくらい年齢の差があると、真似をして良い事と真似だけはしたくない事が良くわかる、よい勉強になった。

病理学教室でもプレパラートに対してもねじ込むように詳しく視る滝沢先生(恐怖の卒業試験での剖検材料の口頭試問は、皆80点以上であった。)ラジオで音楽を流しながらプレパラート視る岡林教授、研究より政治に興味のある元学長の井出源四郎先生、先輩としての先生方に種々の事を教えていただいた。有り難い事であった。

麒麟も老いては 鷲馬に劣る
中国漢代戦国策
老人の話は多く 信を取れば尤も
言を慎むべし
佐藤一斎 言志晩録

こんな事を考えていた時に正に青天に霹靂。皆様のお陰で叙勲の栄を頂く事になりました。有り難い事でした。

旭日双光章

叙勲にあたって



平成23年春の叙勲にて旭日双光章を受章いたしました。これもひとえにのほな同窓会、山梨県医師会、甲府市医師会の先生方を始め多くの方から頂いた御指導御鞭撻の賜と心から感謝申し上げます。叙勲など思ってもみなかったことであり、同級生の皆様はもちらん、私自身が一番驚いております。光栄のことであり喜ぶべきことだと思っておりますが、東日本大震災により多くの方が犠牲になり、日本中の方が苦しんでいると、とても喜べる状況ではなく複雑な心境です。ただ、これまでの実績が評価されたことはうれしく思っております。

私は昭和39年千葉大学医学部を卒業して耳鼻咽喉科教室に入局、故北村武教授に御指導いただきました。大学院生の後半は解剖学教室にて永野俊雄教授に電子顕微鏡の御指導を受け、耳下腺の微細構造で学位を取

清水 天(昭39)

得いたしました。昭和46年郷里の山梨県立中央病院に勤務、赤星至朗先生(昭34)のもとで御指導いただきました。赤星先生には入局当初から今日に至るまで40数年間に亘り、公私とも大変お世話になっており感謝しております。

昭和50年、甲府市に耳鼻咽喉科医院を開業、以後今日まで近隣小中学校の学校医として、児童生徒の健康管理に当たってまいりました。その間甲府市医師会の役員を18年間務め、平成17年会長の任期中に県下広域の小児救急医療体制を構築いたしました。年々夜間の小児初期救急患者に対応し得る医療機関が少なくなつて困つておりました。その頃全国的に小児救急医療システムの充実が叫ばれており、山梨県においても行政を中心に委員会を設置してシステム作り動き出しました。しかしどこが中心になつて運営、経営していくのか話がまとまらず、結局甲府市医師会が引き受けることになりました。一番の難問は少ない小児科医で365日準夜帯、深夜帯の輪番が組めるかということで

したが、場合によっては東京の大学に応援を頼もうということ、平成17年3月にスタートいたしました。

大学の教授を始め県下全員の小児科医が協力して下さり、今日まで6年半一度も他県に小児科医の応援を要請することなく順調に運営されております。協力小児科医85人、協力薬剤師80人、看護師事務職員合わせて45人、総勢200人以上の大勢のスタッフで運営されており、毎年2万人以上の患者さんが受診しております。二次救急病院も整備されており、全国的に優れた小児救急医療体制と高い評価を受けて、平成19年に日本医師会最高優功賞を受賞いたしました。非常に名誉なことでありうれしかったことを憶えております。以上のことが評価され今回の受章につながつたのかと思っております。

73歳と高齢にはなりませんが、まだ自分では元気なつもりですので、もう少し診療、救急医、学校医を続けて地域医療に貢献したいと考えております。のほな同窓会の益々の発展と皆様方のご健勝ご活躍を祈念いたします。

第54回 東日本医科学生総合体育大会 夏季競技結果

個第54回 東日本医科学生総合体育大会 夏季競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
陸上	東京大学	新潟大	慶応義塾	
硬式野球	獨協医科大学	日本医大	岩手医大	4位
準硬式野球	山形大学	新潟大	札幌医大	一回戦敗退
硬式テニス(男子)	慶応義塾大学	東北大	日本大	一回戦敗退
硬式テニス(女子)	福島県立医科大学	筑波大	山形大	一回戦敗退
ソフトテニス(男子)	群馬大学	東京医大	山形大	予選リーグ敗退
ソフトテニス(女子)	福島県立医科大学	北海道大	岩手医大	
卓球(男子)	千葉大学	群馬大	山形大	優勝
卓球(女子)	東京女子医科大学	秋田大	日本医大	8位
バレーボール(男子)	慶応義塾大学	自治医大	東慈医大	16位
バレーボール(女子)	防衛医科大学	秋田大	弘前大	
バドミントン(男子)	筑波大学	東北大	福島医大	二回戦敗退
バドミントン(女子)	弘前大学	岩手医大	秋田大	二回戦敗退
サッカー	新潟大学	札幌医大	筑波大	16位
バスケットボール(男子)	新潟大学	東邦大	東海大	二回戦敗退
バスケットボール(女子)	筑波大学	東女医大	群馬大・聖マリ医大	
柔道	東海大学	旭川医大	埼玉医大・防衛医大	
剣道(男子)	昭和大学	秋田大	札幌医大	予選リーグ敗退
剣道(女子)	群馬大学	秋田大	慶応義塾	
弓道	東北大	新潟大	群馬大	
空手道(男子)	防衛医科大学	岩手医大	自治医大	
空手道(女子)	自治医科大学	獨協医大	埼玉医大	
水泳(男子)	慶応義塾大学	東北大	東医歯大	9位
水泳(女子)	山形大学	秋田大	順天大	
ヨット	横浜市立大学	順天大	慶応義塾	5位
ゴルフ(男子)	慶応義塾大学	聖マリ医大	杏林大	13位
ゴルフ(女子)	慶応義塾大学	筑波大	東医歯大	4位
ラグビー	弘前大学	千葉大	信州大	準優勝
第54回 東日本医科学生総合体育大会 夏季競技結果総合ポイント				
第一位	第二位	第三位	千葉大学医学部順位	
慶応義塾	新潟大	秋田大・筑波大	13位/36校	

個人成績

- ゴルフ(女子) 中島有紀：個人準優勝
- ヨット 小関久美子・井尻直宏・園田至人組：2位
- 弓道 鹿野幸平：5位・最高学年賞、堀川貴史：敢闘賞

卓球部優勝

卓球部前主将 医学部4年 遠藤貴士

8月上旬に行われた、第54回東日本医科学生総合体育大会卓球競技の男子団体にて優勝しました。東医体優勝は二十数年ぶりということで、部員一同大変嬉しく思っております。今回のこのような結果は、OB・OGの先生方の日頃のご協力ご支援があつてこそだと思っております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年度の東医体では第3位という結果だったので、今年度の目標を東医体優勝として練習に励んできました。震災の影響などで思うように練習できない日々もありましたが、特に大会直前には部員全員が集中して練習に取り組める環境を作ろうと努力しました。結果、部員が個々のパフォーマンスを最大限に発揮し、団体としての結果に結びついたので、私個人としましても非常に嬉しかったです。

来年度は前回優勝校として、今年よりも厳しい戦いが待っています。東医体2連覇を目指して、部員一同精進してまいります。これからもご支援、ご協力のほどよろしく願いいたします。



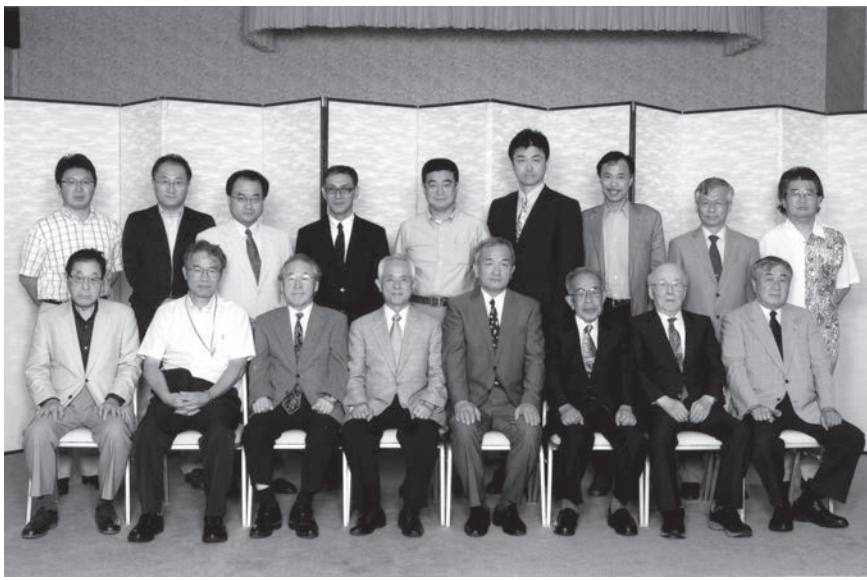
各地のものはな会

だより

安房のものはな会

平成23年安房のものはな会は、整形外科高橋和久教授をお迎えして、6月22日(水)館山市の「たてやま夕日海岸ホテル」で開催された。総会は、まず青木謹会長の挨拶があり、新幹事

の一人の渡辺より会計報告をさせていただき、原久彌先生の監査報告、その他と滞りなく進行した。総会后、武内重樹先生の座長で、高橋教授に「腰痛のプライマリケア」と題して、御講演をいただいた。短時間ではあったが、豊富な情報をわかり易く解説していただき大変勉強になった。記念撮影後、本位田泰介先生の御発声で、懇親会が行なわれた。参加者は、高橋教授



も含めて17名と、ここ数年やや寂しいが、大先輩と若手が和気藹藹と過ごせるのが同窓会ならではの楽しさと思われる。

安房地区は、千葉県全体の、人口は約40分の1、面積は約10分の1の地域である。今回は、亀田メディカルセンターの福武敏夫先生が出席され、亀田にも多数の本学出身者が勤務しており、青木会長の下、鴨川地区との交流も活発になり、今回は20名以上の参加を期待したい。

出席者右から

- 前列：原久彌(昭34)、西川義明(昭34)、貴家昭而(昭30)、高橋和久教授(昭51)、青木謹(昭36)、本位田泰介(昭28) 福武敏夫(昭56)、関谷信平(昭38)
後列：天野晋(平3)、水谷正彦(昭52)、林宗寛(昭60)、伊賀寧(聖マリ大・平2)、辻博勝(平2)、武内重樹(北里大・昭53) 渡辺啓治(昭61)、黒野隆(東海大・昭59)、相正人(島根医大・平9)

(渡辺啓治)

八千代のものはな会

6月11日(土) 7時より市内の地中海料理レスト

ラン(パッソノビータ)にて開催された。1年ぶりの開催で、若干参加者が少なかつたが、幹事権原秀武君の尽力で、TYMC初期研修医3名(1名は急患にて急遽欠席)、TYMC・ER入職の地元出身の黒田泰久君のエントリーを得たことは本会として意義あるものとなった。副会長三浦徹蔵君の司会で開会、昨年急逝した宮腰達朗君に黙祷を捧げ、会長を拜命している小生がTYMC開院5年目を迎え、のものはなシュレの伊藤名誉院長、寺井現院長のリーダーシップの基に着実にRe:Esを始め地域完結医療に実績を上げていること、その労を多とし謝意を表すると共に、今回地域支援病院に認定されたこと、寺井院長が東京女子医科大学理事に新任されたこと、TYMC橋本尚武副院長就任、病理診断科廣島健三教授就任、呼吸器外科関根康雄教授昇任を紹介し、その祝賀も兼ねての開催の主旨を述べ、本会員の更なる協力、支援をお願いした。

まず、TYMC開設準備段階の3者協議会からTYMCを支え育て続け入魂しておられる伊藤達雄名誉院長が今日までの発展ぶりを述べられ、その後寺井院長よりTYMCの現況、特に、3・11東日本大震災の現地医療支援隊の数次に亘る派遣、原発事故後の計画停電への災害拠点病院としての苦心の対応、救急医療、母子医療への高い実績、今後の展望と千葉県次の地域医療計画策定への最後の機会として増床の願いと循環器内科症例数が多

いことにより開院当初から要望であった循環器外科を来年度には加えること。今年度初年度研修医12名もフル・マツチングで、後期研修医も定

着し始め、所期のマグネット・ホスピタルへ堅実に前進している状況を語られた。乾杯は長年当地にて産婦人科ご盛業であった、のものはな会の始どの開業会員がお世話になった本会の重鎮、藤田真先生に乾杯のご発声をお願いした。ご自身の体調と加齢を理由に閉院



されて現在、ご養生しながら、開業中は超多忙で叶わなかった海外旅行など自適な生活をエンジョイされて、昨日もゴルフをハーフされたと披露されて後輩を鼓舞され、なお健在ぶりを示された。懇親会は一人ひとりの全員スピーチと新人の紹介を肴に美味しい料理とワインで饒舌となり、同門の誼で無礼講のうちに次回を約しお開きとした。私学の強固な同門会の結束に思いを馳せ、地区のものはな会の存在理由と意義を改めて、再認識した。ご参加の諸兄弟姉妹がとう。そして、周到な準備して戴いた、三浦副会長と権原幹事に感謝します。

出席者右から

- 前列(座位)：鈴木豊(昭41)、柳橋京子(昭46)、藤田真(昭32)、寺井勝(昭53)、杉岡昌明(昭37)、伊藤達雄(昭42)
後列(立位)：三浦徹蔵(昭39)、黒田泰久(平8)、飯田秀治(昭43)、西出敏雄(昭53)、浜野頼隆(昭46)、中嶋征男(昭47)、橋本尚武(昭55)、寺島市郎(昭38)、廣島健三(昭54)、下山恭平(平23)、工藤可奈子(平23)

(杉岡昌明)

栃木県のはな会

稲葉憲之先生(昭47)が獨協医科大学・学長に就任されたので栃木県のはな会では平成23年9月6日(火)に盛大に学長就任祝賀会を行いました。

就任祝賀会には茨城県のはな会より石川詔雄先生(昭47)、東京都のはな会より吉原俊雄先生(昭53)が駆けつけてくださり、また千葉大学のはな同窓会・伊藤晴夫会長からは「おめでとう」というメッセージに添えて豪華な花束が送られて、遅くまで祝賀と懇親を深めました。

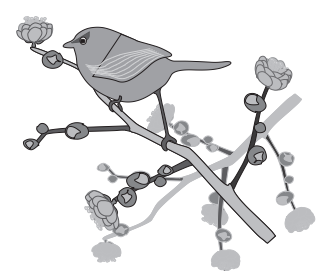
祝賀会は表のようなプログラムで進められ、稲葉学長への激励と期待のメッセージを戴き、夜遅くまで祝賀と懇親の声にあふれておりました。



獨協医科大学稲葉学長就任祝賀会

写真右から

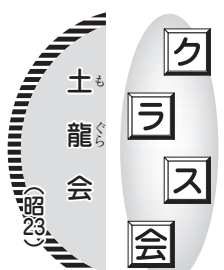
- 前列：福田武隼(昭42)、糸井久雄(昭26)、片山一郎(昭25)、坂田早苗(昭34)、稲葉憲之(昭47)、石川詔雄(昭47)、吉原俊雄(昭53)、大井利夫(昭35)、上山滋太郎(昭33)
二列目：大宮安紀彦(昭53)、本多陸人(昭42)、崎尾秀彰(昭44)、和田康敬(昭32)、一戸彰(昭45)、星野聡(昭43)、門馬公経(昭42)、斎藤弘司(昭43)
三列目：廣田勝太郎(昭55)、小池正造(昭53)、福田健(昭48)、木内信二(昭48)、丹羽章(昭38)、山崎一馬(昭51)、森俣久夫(昭51)、大内聡(昭63)、村野俊一(昭50)、早乙女勇(昭48)
後列：杉田敏夫(昭50)、嶋崎勝典(昭58)、倉沢和宏(昭58)、知久毅(平元)、深澤一雄(昭55)、十川康弘(昭55)、種市洋(昭61)
(大宮安紀彦)



獨協医科大学 稲葉学長就任祝賀会

平成23年9月6日PM 7:00

- 司会 栃木県のはな会事務局長 杉田 敏夫
開会の辞 栃木県のはな会会長 坂田 早苗
来賓祝辞 茨城県のはな会 筑波メディカルセンターセンター長 石川 詔雄
東京都のはな会 東京女子医科大学耳鼻科教授 吉原 俊雄
乾杯 栃木県のはな会相談役 片山 一郎
元栃木県医師会長
祝辞(Ⅰ) 糸井産婦人科院長 糸井 久雄
獨協医科大学法医学名誉教授 上山滋太郎
記念写真撮影
司会 栃木県のはな会理事 大宮安紀彦
祝辞(Ⅱ) 獨協医科大学微生物学名誉教授 丹羽 章
獨協医科大学救急学名誉教授 崎尾 秀彰
祝賀品贈呈 とちのき病院理事長 早乙女 勇
御礼の言葉 獨協医科大学学長 稲葉 憲之
閉会の辞 栃木県のはな会副会長 大井 利夫



平成23年度も例年どおり、9月17日午後4時、日本工業倶楽部会館で、竹内博通・大久保欽司両幹事によって開催された。定刻に出席予定者が全員揃ったので、まず記念撮影(後掲)。そのまま宴席の準備が整っている同室の大テーブルの窓側に6人、向かいあって5人が着席、久し振りで元氣な顔を見せた小渋智哉君の乾杯の音頭で開宴。

いつものように、飲食しながら、竹内幹事の司会で、窓側の端の席から時計回りで、順番に近況報告、回顧談などが続けられた。遠い昔の入学当時を振り返って見ると、戦時中の短縮教育の厳しさは並大抵ではなく、講義・実習は、毎朝午前8時開始、中には教授が演壇に立つと同時に階段教室の最後部に助手が現れて、学生の着席状況をチェック、遅れた者は出席点が貰えない課目さえあった。午後には眠気を吹き飛ばす空襲警報のサイレン、汚れた手を洗う暇もな

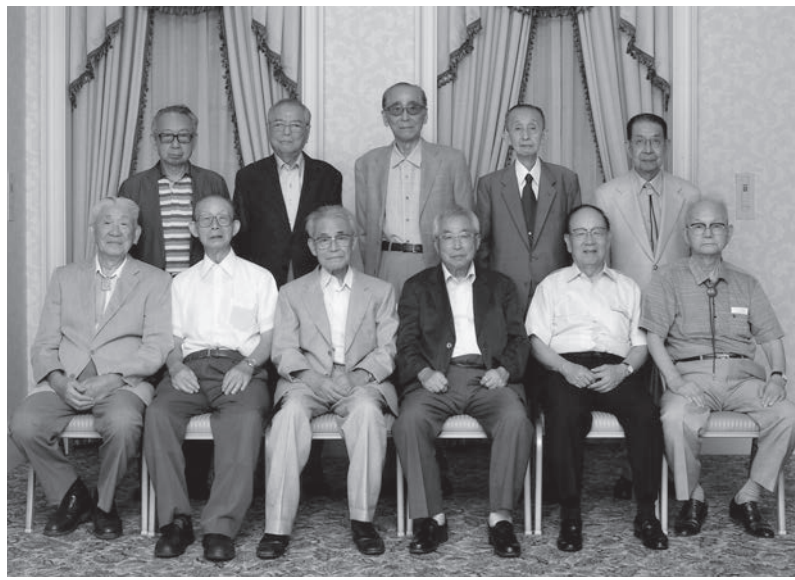
くグラウンドの土手(階段教室の下)の横穴(もぐら穴)に飛び込む始末。その戦中、さらに戦後の苦難に耐えて、昭和23年亥鼻台を巣立ち、龍と化して天空に飛翔した(?) 127名の青年も、今では(今年)の出席者の平均年齢87才と5ヵ月)生き残った45名が地上をトボトボ歩いているかと思いきや、まだまだ元氣。大病院や施設の責任者は老健施設の宮崎君以外は、要職は退いたが、まだそれぞれの専門分野で活動が続いている人が多く、悠々自適に徹する者は少ない。開業組はさらに元氣で、今年も遙々新潟から参加の杉山君などは午後の診察はご子息に任せ、愛車のハンドルを握って雨の日も雪の日も、若者に負けないフルスピードで往診、地域医療の重要な担い手になっているというから驚異的。今日も午前の診療を終えてから、会場に駆けつけて幹事の労をとってくれた大久保君は、休日にはゴルフコースを廻ってストレスを解消するという、心身ともに健全。ただ、かつては学校医その他幅広く活動していた板垣君は最近足腰が弱って自宅開業に専念、今日は駅の階段が不安でタクシー

で来たとのこと。出席者の健康状態もさまで、まだ自分の歯が全部揃っている柴田君に対して私などは総入れ歯寸前、多くの病気を抱え、で、六病息災などと痩せ我慢をして、なんとか仕事を続けている。また欠席の返信があった人の過半数は本人または家族の病気を理由にあげている。

高年齢者揃いの「もぐら会」の最後の議題は「来年どうする?」。平成20年、60周年を前に全員に往復はがきを送って今後の開催についてアンケートを実施、その結果(継続を希望する10、今年で終了した方が良い17、不明24)を「60周年もぐら会」の出席者12名(アンケート回答では継続5、終了4、不明3)で討議した結果、次年の幹事の引き受け手が2人以上いれば次年も開催することになり、その後も何とか続いている。

来年については会議の中では継続開催を希望する発言が多かったが、幹事については、先ず経験豊富な板垣君から来年やっても良いとの意思表示があったが、あとの一人に手間取り、結局大久保君が来年もやってくれることで決着。

来年9月29日(土)の会場の予約もとれ、その間に届けられたこの写真を全員に手渡して、本年も「もぐら会」無事終了。



写真右から
前列：杉山静也、柴田鐵郎、大久保欽司、宮崎隆次、竹内博通、小洪智哉
後列：板垣修造、前田裕、多賀谷謙、九島璋二、上野高次
(前田 裕)

みふみ会
(昭32)

平成23年度のみふみ会は、10月23日東京駅南口の丸ビル36階にある中華料理の福臨門で行われた。本年初めに李兆佳君が亡くなられたので弔意を表して全員で黙祷を捧げた。

卒業生85名のうち物故者23名、在アメリカ3名、国内59名である。今回の参加者は21名、遠くは久留米から谷川久一君が、大阪からは石川正士君が参加された。東日本大震災による被害が横尾敦夫君一人のみで



怪我もなく最小に留まったのは幸いである。

例によって夫々の近況報告があったが、愈々八十路の坂にさしかかるのは避けられず、多少の健康不安材料が増したのは止むを得ないであろう。出席者は、皆元気に歓談し、次期幹事には仙波君、野口君にお願いすることに散会した。

出席者右から
前列：戸川清、横尾敦夫、藤本茂、布川武男、前田昌利、吉田豊
後列：川口幸夫、谷川久一、野口照義、仙波恒雄、藤田真、飯塚正章、矢野和之、川島裕、竹内達、高橋英世、高橋柳子、中村常太郎、石川正士、高倉永政、平嶋毅
(幹事：吉田豊 前田昌利 竹内達)



さんろく会
(昭36)

卒後50周年を迎えて「さんろく会」は卒後50周年を迎えたのを祝って、三つの祝賀会を計画した。

4月3日に母校の新しい病院を見たいという一部同級生の希望があり、花見を兼ねて病院を見学した後に千葉市内のホテルで祝賀会を持つと計画した。大学側の了解は得られ、希望者を募ったところ予想以上(約90%)の参加希望者があった。しかし、3月11日東日本大震災が発生し、東北地方に多大な被害をもたらしたとの報道で祝賀会どころではないと計画は中止した。

10月15日に山形県天童市にある天童ホテル(今野昭義夫人の実家)に集まり祝賀会を開催した。参加者は、

さんろく会員の19人に加え、奥方らの8人が参加し、総勢27人であった。

祝賀会に先立ち記念写真撮った。その後、ホテルの宴会場に席を移し、祝賀会を開いた。ホテルの心こもった豪華な料理を堪能しながら夜の更けるのも忘れて楽しい時を過ごすことができた。

翌16日は貸切りバスで蔵王の紅葉を見に行った。山麓から頂上に向かうにつれ紅葉が変わっていくのがよくわかり、大自然の素晴らしさを堪能した。残念なことは頂上付近は霧がかかっており「蔵王のおかま」が見られなかったことであった。

山をおりて、昼食は今野夫人推奨の「栖下宿」に「やく番所」を訪れ、こんにやく懐石を楽しんだ。こんにやくを様々な料理法で食べさせてくれた。このおいしさは食べた者しか分からない郷土料理で、酒なしなのに笑いの絶えない楽しい昼食だった。

写真、ホテルの写真屋さんのアドバイスで、前列の9人は単身で参加した人

が座り、最後列は夫人連れで参加した人が立ち、ご主人の前に夫人が並ぶという配列になった。

出席者右から

前列：黒田健昭、野尻雅美、加藤昌義、山崎修道、副島訓子、福井進、小野沢君夫、関幸雄、吉井逸郎
後列：小越章平、大川治夫、白石博康、淵上隆、前嶋清、今野昭義、長谷川修司、塚原重雄、青木謙 (福井進)

37クラス会報告

(昭37)

報告に先立ち、3月11日午後2時45分発生の東日本大震災の全ての被災者に心から哀悼とお見舞いを申し上げます。ととも一刻も早い復興を祈念いたします。8時は流れて時を知り、友は別れて友を知る。昭和37年卒あのはな37クラス会梅雨空の下、東電原発事故後の節電の中、平成23年6月25日(土)午後5時より恒例の帝国ホテル東京3F雅の間にて開催した。ガン闘病中、歩行障害、老々介護、認知症などの理由で不参加はあったが、近來最多の35名の参加をえた。当日はクラス会日和か、

隣室は東大医学部卒クラス会、2Fでは千葉大医学部56年卒クラス会、3Fでは都立日比谷高校クラス会などなど目白押しであった。不参加の返信をファイルして、文章、字体、書体を閲覧して貰い、顔の見えない級友の微妙な変化を感じて貰った。物故会員16名への黙祷後、被災地郡山の十林君(南東北病院)に現地の現状報告を受けたあと今回の原発事故による「安全神話」崩壊後の「情報災害」を放射線治療専門医の立場から油井君(元千葉県がんセンター放射線科)に「微量被曝を考える」と題して、私の短観を資料を基にシールト、ベクレルの解説から入り、身体への被爆影響について、半世紀以上前の学生時代に学んだ単位との違いの説明を受けてQ&Aを行った。クライシス・マネージメントからリスク・マネージメントへのマスマディアの風評被害の渦中、正論を述べると御用学者との批難を浴びるといふ今日、世界唯一の原子爆弾被爆国として広島、長崎の不幸な今日までのデータを基にEBMを日米共同して発信すべきと思う。放射能に対する正しい知識理解の基に冷静な対応を国民に期待



したい。初めて知った事は日本の法律に依る被爆限度は医療従事者は50mSv/年、100mSv/5年、(生殖可能女子5mSv/3月)、一般公衆は1mSv。PET/CTは10mSv。しかし、医療被曝は適正、正当で限度なし。物理学者の評論家ではなく放射線医学の専門家は

蚊帳の外での発言ではなく、この情報被害を含む国難に蚊帳の中で立ち上がった。国民と政府の信頼関係の回復に尽力して欲しい。

スピーチが、年とともに話が長くなり出席者全員の話が終わった時刻は30分オーバーし、後半の友の話を急がせたことをお詫びしたい。3時間の懇親会になったが、今回の放射能の再学習タイムに免じて会場使用延長を特別許可戴いたホテルに感謝。

因みに、松江君(元がんセンター中央病院放射線科)はその昔、医学連中執らしくハ脱原発運動へ余生を賭ける！と雄叫びを上げ、書生気質健在ぶりを発揮していた。その後十数人で17Fのバーアクアで、全ての級友がオールド・オールドになる来年の卒後50周年記念クラス会の相談、準備会を作りそこで趣向、時期、場所など検討すること約して散会した。

38年卒同窓会

(昭38)

年に一度開催しているクラス会―38会は、10月16日(日)の昼間の会食のみという今までにはない簡便なスタイルで、出席の返事をいただいた34名(含夫人2名)全員の出席で行われました。千葉在住の幹事が銀座アスターお茶の水賓館というアクセスのよい会場に決めたのは、集まりやすいようにとの考えからでした。一番遠方の沖縄から参加の嶺井進君は、日帰りで行かれました。まず、去る7月に他界された山岸勲君のご冥福を祈り黙とうをささげ、その後、若新政史君の乾杯の音頭で会が始まりました。

例年通りの会食をしながら、紹興酒を飲みながらの出席者全員のスピーチが始まり、ワイワイがやがやと賑やかなムードの中で進められ、近況報告や思いのたけをうん蓄を傾けて延々と話をする人・・・相変わら

ずの楽しい会合でした。
集まった仲間を見るとまだ元気、公職についておられた方々は、多くが第一線をひかれましたが、医業からは離れずに週何日か、また、開業されている方々は、診療内容・診療時間の縮小などは見られませんが、ともに医療活動・啓蒙活動にと地域医療に貢献されて活躍されています。

今年の反動でしょうか。来年度は、盛大に行うことになり、文集の編集を含めて中心となる幹事―香西襄君、大木勲君、木下昌君、栗原伸夫君を決め、最後に集合写真を撮って、再会を約して解散いたしました。

写真（加藤君撮影）
右から

前列…佐藤裕俊、野本高志夫人、木下敏子、田中満、大木勲、十河正寛、沖田正彦、若新政史、香西襄、北村温、玉置哲也、加藤友衛、後列…谷修一、蘭部和子、藤本重義、大津裕司、守矢和人、林直諒、栗原伸夫、三木亮、黄田江庭、寺島市郎、嶺井進、宮下久夫、尾崎賢太郎、木下昌、渡部浩二、楯二郎、鳥羽剛、関谷信平、長山忠雄、熊田正義、村山憲太、玉置夫人

（十河正寛）



平成2年卒同期会

平成2年卒同期会が、平成23年3月5日土曜日午後7時から、JR千葉駅近くのセンシティタワー22Fの東天紅で開催されました。電子メールを使つての連絡しか行えませんでした。当日は、30人の同期に参加していただきました。小風暁君の司会進行により、岡本和久君の乾杯のあいさつの後、鈴木啓悦君が、平成22年4月に、東邦大学医療センター1佐倉病院泌尿器科教授就任の挨拶をされました。また、平成23年4月から、安西尚彦君が、獨協医科大学医学部薬理学講座の主任教授就任予定の挨拶もいただきました。おめでたい話が続いた後、今回の会は、立食でしたので、皆、食べるのも忘れ、学生時代のこと、仕事のこと、家族のことなど、過去、現在、未来の様々な話に花が咲いて、非常に盛り上がり、あつという間に時間がたってしまった感じです。用意した二次会は、千葉駅前プロントという店でしたが、それでも、話につきない10人が、立ち飲み屋での三次会に、突人となりました。その席で、この同期

会を、今までの不定期開催から、毎年3月の第一土曜日に恒例で開催したいとの話になり、二次会以降、静岡から駆けつけてくれた浦島哲郎君が、来年は、箱根での開催を考えてくれるという話になりました。というわけで、平成2年卒の方で同期会開催の連絡が来ていないという人、一度、清水栄司のアドレス、aji@faculty.chiba-u.jp、または、メールをお願いします。



毎年、同期会を行いますよ！
出席者右から
前列…清水栄司、国富（本郷）由紀子、仲野（柳田）敦子、鈴木啓悦、安西尚彦、荒瀬佳子、中里（青山）道子、小風暁、
中列…野澤聡志、石川文彦、黒田徹、神川康也、石和田稔彦、齋藤功、小倉武彦、吉富秀幸、老沼和弘、高柳建志、岡田吉弘

人事異動

准教授
遺伝子制御学
渡邊 紀彦（平3）
（同講師より）

呼吸器病態外科学
吉田 成利
（山梨医大・平2）
（同講師より）

講師
消化器内科
藤原 慶一（平2）
（同助教より）

アレルギー・膠原病内科
廣瀬 晃一（平5）
（同助教より）

平成23年度
大学院医学薬学府
10月入学者

- 〔生殖機能病態学〕 瞿佳
- 〔消化器病態学〕 姜霞
- 〔神経科学〕 任乾
- 〔眼科学〕 Bikhova Guzel
- 〔病態検査医学〕
- 〔公衆衛生学〕 望月明日香
山本 緑

追悼

故 中島伸之先生を偲ぶ

千葉大学大学院臓器制御外科

宮崎 勝 (昭50)



千葉大学臓器制御外科 (旧第一外科) 教室の前教授の中島伸之先生が本年10月20日未明に大阪でお亡くなりになりました。中島先生は平成3年秋に千葉大学第一外科の教授に選任され、当時大阪の国立循環器病センターの心臓血管外科部長をされており、千葉大学の教授に選任された後の半年間は大阪と千葉を行き来し両施設の兼任をされてきました。平成4年4月より千葉大学教授の専任となつてこられました。先生のご専門は血管外科であり特に大血管外科を得意として胸部大動脈瘤の外科治療には多くの業績を残されています。また肺動脈塞栓症に対しての外科治療も本邦ではトップレベルの治療成績を挙げてしばしば海外の学会にこの講演で出席をさ

れていました。平成13年3月に退官されるまで多くの外科医の育成にあられ特に心臓血管外科医の育成にはおおきな尽力をされ中島先生のこの仕事はその後の千葉大学の心臓血管外科教室の誕生へと繋がっています。退官後には鹿島労災病院院長、さらにはその後山形の佐藤病院にも勤務され70歳を過ぎても外科手術をされるといった外科医人生を貫かれた訳であります。先生は本当に外科手術が好きであり教授時代にも教室員への外科医としての指導は常に強い情熱を感じる暖かくも強い姿勢で後輩の指導にあたられていました。また先生はいつもご自身の健康に留意されジョギングを好み大変な運動好きの先生でありました。学生時代にはヨット部として活躍されただけあり体型にはまったく老いを感じさせるものがあります。その先生が平成22年秋に突然黄疸を発症され我々の教室に入院してきました。それからの事

は先生にとつても我々後輩の教室員にとつても大変辛い時間を過ごす事になってしまいました。わたし自身メンターとしての恩師の中島先生の病魔に主治医としてメスを振るう事になってしまったわけでもあります。先生とも術前何度もお話を繰り返した上で外科切除術の選択を決定したが、その決定に際して先生が全てを任せるからと言っていたことは先生に育てられた外科医師としての後輩の私としては感謝に堪えない嬉しい言葉でありました。最善の治療を尽くし手術を終えた後順調に退院されて再び山形に戻りたいというご本人の強い希望で仕事に戻られて行きました。勿論病気のステージからみて私としては薬物療法をしていただくようお願いし先生は嫌々ではありましたが従っていただきました。しかし本年10月に残念ながら帰らぬ人となってしまいました。我々臓器制御外科教室並びに同門会医員皆その喪失感がいかに大きいか今思い知っている所であります。しかし悲しんではかりではいられません。いつもお元気にしておられた中島先生に叱られてしまいました。先生が指導して育成し

てくださった我々教室員は先生の大好きであった外科の今後の更なる発展に大学人として全力を挙げて休むことなく務めていくことが中島先生のご遺志に従うことになっていくと思ひ教室

並びに千葉大学医学部の一つの外科教室として頑張つていきたいと改めて思う次第です。中島先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

第36回のはな美術展開催

石谷治彦 (昭24)

平成23年10月3日から10月9日まで7日間、東京銀座で有名画廊が影をひそめるなか、「ギャラリーひまわり」斉藤氏から絶大な協力を得て開催されました。出品者は10名、不出品者4名。作品は油彩・水彩・パステルを合わせて28点で、今回は大型の作品が多く、会場の壁面一杯になりました。



懇親会



最終日に集まった同窓の会員

第36回 あのはな美術展 出品作品

平成23年10月3日(月) ~ 10月9日(日) 銀座ギャラリー向日葵

氏名	卒業年	作品
1 島田 哲男	昭41	①裸婦 ②裸婦 ③お盆休みの那須旅行 ④お盆休みの那須旅行
2 榎本 貴夫	昭47	①まぼろしの滝・養老溪谷 ②桜一弘前城址一
3 神山 英明	昭22	①エジプトの象形文字 (ヒエログリフ)
4 石井 邦夫	昭26	①日本よ何処へ行く 3.11 ②静物 ③鳥賊と鯨
5 関根 博	昭26	①アフリール ②静寂
6 石谷 治彦	昭24	①塔の沢 ②ホテルフェアモント ③街 ④プロフィール
7 伊藤 進	昭26	①野菜 ②石神井公園 ③貝殻のある静物 ④一橋大学講堂
8 野口 眞利	昭40	①モンマルトルのぶどう園 ②物乞いのいる洞窟 ③ばら
9 吉川 広和	昭40	①阿蘇山・黒川温泉
10 川村 孝子	昭36	①想う ②くつろぐ (I) ③くつろぐ (II) ④蓼科にて

©不出品者 宮下久夫・加瀬幸雄・柴崎晃・山川晋吾 (順不同)

地球病変のなか、千葉の名がめまぐるしくニュースを賑やかす昨今。同窓会長・伊藤晴夫先生と、絶え

ず連絡をいただく清水久美子氏に、会員を代表して御礼申し上げます。

23年度会計報告

平成23年10月16日現在

23年度収入		23年度支出	
同窓会賛助金	180,000	画廊使用料	440,000
会員出品料10名	250,000	案内ハガキ印刷・	
不出品 3名	15,000	通信用品等	100,000
		懇親会・礼金	50,000
合計	445,000	合計	590,000

学内情報

平成二十三年度関東四大学

研究医養成コンソーシアム

夏のリトリート開催報告

医学部五年 木下 大輔

平成23年8月17、18日の二日間にわたり、第二回関東四大学研究医養成コンソーシアム、夏のリトリートが千葉・生命の森リゾートにて開催されました。本リ

トリートには、群馬大学、東京大学、山梨大学、本学の教員十二名、学生二十七名が参加しました。本学からの参加者は、分子ウイルス学白澤浩教授、整形外科学高橋和久教授、分化制御学坂本明美先生、医学部六年大石賢吾さん、医学部五年曾根原弘樹さん、木下大輔、医学部四年澤田大輔さん、藤井早紀子さん、山田裕太さん、医学部三年谷口絢さん、医学部二年市川光さん、今井悠さん。なお、第二回である今回のリトリートは、本学が担当大学として、準備・進行等を務めました。



一日目は各大学の参加者の紹介に続き、ポスターセッション・招待講演が行われました。ポスターセッションでは、各大学五名ずつ、計二十名のポスターが

発表されました。前半は、各学生五分の口頭発表、後半はFree Discussionと称し、活発な議論が交わされました。学生および教員の投票に基づくポスター賞が設けられており、計四名の学生が表彰されました。本学からは、医学部五年曾根原弘樹さん、木下大輔の二名がポスター賞を受賞することができました。

また、Thomas Tammela 先生 (University of Helsinki) の招待講演では、欧州の研究医教育制度の紹介、第一線で活躍されている若手研究医としての経験談を伺うことができました。今後のキャリアを考えるうえで、非常に参考になったとの意見が聞かれました。ポスターセッション・招待講演終了後も、学生・教員で夜遅くまで情報交換が続けられ、各大学のプログラムを更に発展させる方法を考えるとともに研究内容の議論を通じ、交流することができました。

を受けたようでした。二日間のリトリートを通じ、医学研究に興味を抱く学生同士が交流すること、議論を通じてモチベーションをアップさせること、活躍されている先生方の話を伺うことができ、昨年

第6回夏鼻キャンパス留学生交流会

るのはな同窓会支援

平成23年11月4日(金)午後6時〜8時30分、ののはな同窓会館において「第6回夏鼻キャンパス留学生交流会」を開催しました。今回は、医薬系総合研究棟の第II棟が9月に完成し、薬学部への移転が完了致しました。そして、11月2日(水)、竣工記念祝賀会が盛大に開催されました。それに伴って、海外からの留学生もこれまでの薬学部生物系研究所属の10名から31名と大幅に増加しました。その結果、本学の教員、職員と14ヶ国(中国、バングラデッシュ、インドネシア、ニュージーランド、韓国、台湾、米国、フィリピン、ネパール、ナイジェリア、フィジー、タイ、スーダン、

開催された第一回に引き続き、非常に充実した時間を過ごすことができました。今後、各大学間での交流がより活発なものとなり、本リトリート、ひいては医学研究が更に発展するよう全力を尽くしたいと思います。

今回は、アトラクションとして、3年ぶりに餅つき大会を行いました。多数のみなさんは童心に帰って日本の伝統・餅つきを楽しんでおられました。お手伝いの子供さん達が頑張っていて皆さんに持って回ったこともあり、つぶあん・きなこ・海苔巻きをの餅をこのようにして食べるのかと興味を持ちつつ、みなさん2升のお餅をあつという間に食べていただきました。また、今年とはとくに餅つき時にすこく頼もしい合いの手、助っ人のご登場があり、子供さんも含めたこれまでにない多数の留学生が餅つきを楽しみました。綿菓子作りも大好評で、会場は笑いと歓声と拍手が絶えず、とくに子供さんの笑顔がとて輝いて見えました。教職員・留学生の自己紹介を予定していましたが、あまりにたくさんの方で、何もできないまままでした。留学生のみなさんから「この交流会

には帰国してからも参加したいほど」という話を聴くと、交流会は年一回ですがやっぱり大切な憩いと出合いの場所という思いがしました。集合記念写真にはこれまでで最高の89名が写っています。毎年交流会の多数の写真は多鼻地区の桜の風景・建物の写真と共にCDとして無料で留学生全員に記念に配布しています。ぜひCDをご覧ください。今後とも、新しい若い世代との交流の場として、日本でのよりよい学生生活・



第6回夏鼻キャンパス留学生交流会 2011.11.4.

研究生生活の想い出となる、より充実した交流会として発展・継続させていきたいと思っています。千葉大学の医療系3学部が勢揃いして、ますます密接な交流・協力体制が築けるものと確信しております。

最後に、ご支援をいただきました医学部学務グループ・工藤裕恵氏、加藤美由紀氏、渋谷圭美氏、病院・内田清子氏、留学生の皆様に感謝申し上げます。分子生体制御学の西山眞理子氏、永井宏子氏、ゐのほな同窓会、薬学部同窓会の皆様のご協力ご支援に厚くお礼申し上げます。

亥鼻祭

2011年度亥鼻祭実行委員長
医学部4年 遠藤 貴士
今年度も11月5日(土)、6日(日)に無事亥鼻祭を開催いたしました。二日目は雨天のため、ステージ企画を記念講堂内にて行うなど変更点もありましたが、大きな混乱もなく終わることができました。来場者は一日目がおおよそ1400人、二日目がおおよそ1600人と、二日間で約3000人の方に来ていただきました。雨の中、例年以上のお客様に会場していた、嬉しく思います。

今年度は亥鼻祭が復活してから9年目ということ、資金面の関係もあり企画内容の縮小なども考えていたのですが、会長の伊藤晴夫先生をはじめ、ゐのほな同窓会会員の皆様のご協力のおかげで、大学祭の規模を縮小せず開催することができました。亥鼻祭実行委員一同、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。来年は亥鼻祭も10年目という節目を迎えます。医療系キャンパスの大学祭として、さらなる発展をめざします。同窓会員のみならず、ご協力が不可欠であります。これからもどうか亥鼻祭をよろしく願います。なお、ご寄付をいただいた皆様には後日、報告書を郵送させていただきます。詳しい活動内容に関しては、こちらをご覧ください。よろしくお願いたします。



千葉大学医学部ヨット部 60周年記念式典



去る11月13日(日)、17時から、京成ホテルミラマールにて、創部60周年を迎えた千葉大学医学部ヨット部は記念式典を執り行いました。昭和26年(1951年)に、「千葉医科大学ヨット部」が誕生、翌昭和27年(1952年)に、全学的な「千葉大学ヨット部」へと発展。一方、医学部教育カリキュラムの専門化から、昭和54年(1979年)に「医学部帆走部」という名称で医学部ヨット部が発足、今日に至る60年の歴史の中で、OB会メンバーは100名を超え、30人を超える現役部員の活躍を誇っています。式典は、講演会と祝賀会の2部制で行われました。開会に先立ち、我がO



「高く歌わん海の歌」というタイトルで、先生が作詞作曲されたヨット部の歌「海の歌」の誕生秘話が明かされるとともに、日増しに重要性を増している医療機能評価についてお話をいただきました。当日の会場で流されました。お二人目は、日本体育協会国民体育大会委員会副委員長、千葉県体育協合理事長、千葉県セーリング連盟会長の荒川昇先生から、「日本のスポーツ100年」と

いうタイトルで、ご講演を賜りました。講道館創始者でもあり、日本人初のIOC(国際オリンピック委員会)委員となった嘉納治五郎先生が世界のオリンピック競技大会への参加体制の整備を目指した明治44年(1911年)から今年がちょうど100年にあたり、かつ、千葉大学医学部ヨット部60周年となっていることを教えていただき、また、今年、スポーツ振興法が50年ぶりに全面改

千葉大学医学部ヨット部 60周年記念式典



正されたスポーツ基本法が公布され、スポーツ推進のための医学の果たす役割への期待について興味深いお話をいただきました。その後、参加者全員での記念写真撮影を経て、会場を最上階へと移しての記念祝賀会では、最初に、徳久剛史千葉大学医学部ヨット部部长(昭48)の挨拶、斉藤威監督からの激励の言葉、そして、元帆走部(ヨット部)部長である平嶋毅先生(昭32)による60周年記念の乾杯の発声を経て、50人を超えるOBの参加と30人を超える現役部員の交流により、非常に盛会となりました。

た。現役ヨット部学生から、式典の御礼と東医体などでの活動報告、新人紹介がなされた後、それぞれの世代のOBを代表し、木元正史先生(昭60)と佐藤嘉治先生(平10)から、その世代の歴史を語ってもらった頃には、あつという間の時間の経過を惜しみながらの締めめの言葉を前嶋清先生(昭36)からいただく時間となっていました。春には、60周年記念誌の発行も決まっております、今後も医学部ヨット部は、OB、現役を合わせて、躍進していく決意ですので、同窓会の先生方の温かいご声援をよろしくお願い申し上げます。

記 念 写 真 一 列 目 右 か ら
清水栄司(平2)、木元正史(昭60)、斉藤威監督、深尾立(昭39)、徳久剛史(昭48)、中谷晴昭・医学研究院長(北大・昭49)、山浦

晶(昭40)、村上和(昭32)、平嶋毅(昭32)、荒川昇会長、前嶋清(昭36)、大河原邦夫(昭39)、竹島徹(昭41)
文 清水栄司(平2)

免されて、長子康宗が千石の知行取り(旗本)となり一件落着した。この石出村から3kmばかり西に行った笹川村(現東庄町笹川)他、香取郡八ヶ村を知行していたのが旗本石河氏(270石)で、安政年間当時の当主を政平といつた。条約勅許。將軍継嗣問題に端を発して、大老井伊直弼により断行された「安政の大獄」では、徳川御三家の徳川斉昭(水戸藩)・徳川義恕(尾張藩)、一門の松平慶永(福井藩)・老中堀田正睦(佐倉藩)らの隠居・罷免、また吉田松陰・橋本左内らが処刑されたことはよく知られている。しかし旗本石河政平に下された苛酷な処分については余り知られていない。

千葉県の郷土史・旗本知行所研究の大御所川村優先生からいただいた『安政の大獄』の犠牲者一橋派旗本石河政平』にその詳細が記されている。石河氏知行所八ヶ村の郷代役を務めた多田宣平が、一件について石河氏の江戸屋敷と交わした書簡の記録「書留」を川村先生が調査された論文である。「書留」には幕府の文書からは知り得ない事情が書かれている。郷代役とは地頭の代理であると同時に知行所領民の代表でもあった。多田氏は享保9年(1724)以来の笹川の醤油醸造元である。政平は京都町奉行・小普請奉行・勘定奉行・御留守居次席・刑部卿殿(一橋慶喜 後の15代將軍) 家老などの要職を経て、安政5年(1858)側衆(將軍の秘書官)のうちでも筆頭職にあたる御用取次に昇任した。平の側衆とは違って、未決・機密の案件を直接將軍に取次ぐ役である。従って將軍の判断に影響を与えることもあり得たであろう。しかし同年7月6日政平は、若年寄本多越中守宅において、側衆の解任と嚴重な謹慎を申し渡された。「御宅」という大変に重い事件を犯した場合の処分である。しかしその根拠は「思召二不応」という曖昧な理由であった。その4ヵ月後の11月12日夜、政平は江戸の自邸で自害した。閉門、謹慎中であつたため、葬儀・菩提寺への埋葬もできず遺骸は自邸の庭に仮埋葬された。死亡届も出せなかつたのである。さらに追い討をかけるように、翌6年(1859)10月27日「御勤役中勤方不宣」という理由で、「知行のうち七百石上の上隠居」という二度目の処分が下され

ている。また世子は減知された家禄2千石を相続したが、中興御小姓を罷免されて寄合入りを申し付けられた。正式な処分が終了したためであろう、同年12月15日幕府より江戸屋敷の開門が許可され、同27日夜遺骸は駒込の大圓寺に埋葬された。翌萬延元年(1860)閏3月4日若年寄牧野遠江守に、表向「御病死」の届が出され、同日夜「御手輕之御送棺」が行われた。形式的に簡略な葬儀が行われたということであろう。その1ヵ月前の3月3日桜田門外において水戸浪士らにより、井伊直弼が斬首されている。幕府から政平に対する正式な謹慎処分解除が下されたのは、病死届出から更に半年後の同年9月7日である。政平の出世には、安政2年(1855)から筆頭老中を務め、次期將軍候補として一橋慶喜を推していた堀田正睦らの引きがあつたことは容易に推測される。一橋派の代理人として、紀州藩主徳川慶福(14代將軍家茂)を將軍候補に推す井伊直弼の憎しみをかつたのであろう。郷代役を務めた多田家は現在も醤油醸造業に携わっている。高級銘柄「漆つくし」で知られる「人正醤油」である。

雑 文 雑 談 旗 本 の 話 ・ 続

石 出 猛 史 (昭 52)

旧幕時代の千葉県は、寺社領などを除くと天領(幕府の直轄地)・譜代大名御料所・旗本知行所からなっていた。知行所を与えられた旗本は領民からは地頭と呼ばれていた。火附盜賊改長谷川平蔵(山武郡九十九里町)・町奉行と大目付を歴任した遠山金四郎(茂原市)・將軍家劍術師範小野次郎右衛門(成田市・東金市)などの、また旗本には挙げられないが、江戸町奉行所与力50騎分一万石の知行所も千葉県内にあつた。

元禄11年(1698)から大岡氏と共に香取郡石出村(現香取郡東庄町石出)を相給地として知行したのが天野三郎兵衛である。天野氏は三河譜代の最古参で五方国時代の三河三奉行のひとつであるが、「天野康景(三郎兵衛の曾祖父) 逐電一件」という事件で知られている。慶長12年(1607)3月、当時駿河国(静岡県)興国寺(二万石)城主であつた康景の領内に、天領の農民が侵入して竹木を盗伐した。このため争いとなり、康景の足輕が農民を殺傷するに至つた。徳川家康の側近本多正信らは、天領の農民を殺傷した足輕の首を差し出すように要求してきた。康景は「罪の無い足輕の首を差し出すことはできない。しかし公威を傷つけるのは政道の妨げとなる。自分が責任を取る。」と言い残して、長子康宗(三郎兵衛の祖父)を連れて出奔したという事件である。当然家は取り潰しとなった。戦国武士は、自己保身のために部下を犠牲にするなどということはしなかつたのである。21年後の寛永5年(1628)天野氏は赦

免されて、長子康宗が千石の知行取り(旗本)となり一件落着した。この石出村から3kmばかり西に行った笹川村(現東庄町笹川)他、香取郡八ヶ村を知行していたのが旗本石河氏(270石)で、安政年間当時の当主を政平といつた。条約勅許。將軍継嗣問題に端を発して、大老井伊直弼により断行された「安政の大獄」では、徳川御三家の徳川斉昭(水戸藩)・徳川義恕(尾張藩)、一門の松平慶永(福井藩)・老中堀田正睦(佐倉藩)らの隠居・罷免、また吉田松陰・橋本左内らが処刑されたことはよく知られている。しかし旗本石河政平に下された苛酷な処分については余り知られていない。

千葉県の郷土史・旗本知行所研究の大御所川村優先生からいただいた『安政の大獄』の犠牲者一橋派旗本石河政平』にその詳細が記されている。石河氏知行所八ヶ村の郷代役を務めた多田宣平が、一件について石河氏の江戸屋敷と交わした書簡の記録「書留」を川村先生が調査された論文である。「書留」には幕府の文書からは知り得ない事情が書かれている。郷代役とは地頭の代理であると同時に知行所領民の代表でもあった。多田氏は享保9年(1724)以来の笹川の醤油醸造元である。政平は京都町奉行・小普請奉行・勘定奉行・御留守居次席・刑部卿殿(一橋慶喜 後の15代將軍) 家老などの要職を経て、安政5年(1858)側衆(將軍の秘書官)のうちでも筆頭職にあたる御用取次に昇任した。平の側衆とは違って、未決・機密の案件を直接將軍に取次ぐ役である。従って將軍の判断に影響を与えることもあり得たであろう。しかし同年7月6日政平は、若年寄本多越中守宅において、側衆の解任と嚴重な謹慎を申し渡された。「御宅」という大変に重い事件を犯した場合の処分である。しかしその根拠は「思召二不応」という曖昧な理由であった。その4ヵ月後の11月12日夜、政平は江戸の自邸で自害した。閉門、謹慎中であつたため、葬儀・菩提寺への埋葬もできず遺骸は自邸の庭に仮埋葬された。死亡届も出せなかつたのである。さらに追い討をかけるように、翌6年(1859)10月27日「御勤役中勤方不宣」という理由で、「知行のうち七百石上の上隠居」という二度目の処分が下され

ている。また世子は減知された家禄2千石を相続したが、中興御小姓を罷免されて寄合入りを申し付けられた。正式な処分が終了したためであろう、同年12月15日幕府より江戸屋敷の開門が許可され、同27日夜遺骸は駒込の大圓寺に埋葬された。翌萬延元年(1860)閏3月4日若年寄牧野遠江守に、表向「御病死」の届が出され、同日夜「御手輕之御送棺」が行われた。形式的に簡略な葬儀が行われたということであろう。その1ヵ月前の3月3日桜田門外において水戸浪士らにより、井伊直弼が斬首されている。幕府から政平に対する正式な謹慎処分解除が下されたのは、病死届出から更に半年後の同年9月7日である。政平の出世には、安政2年(1855)から筆頭老中を務め、次期將軍候補として一橋慶喜を推していた堀田正睦らの引きがあつたことは容易に推測される。一橋派の代理人として、紀州藩主徳川慶福(14代將軍家茂)を將軍候補に推す井伊直弼の憎しみをかつたのであろう。郷代役を務めた多田家は現在も醤油醸造業に携わっている。高級銘柄「漆つくし」で知られる「人正醤油」である。

OB参加者リスト

平嶋 毅(昭32)	村上 和(昭32)	三橋 稔(昭35)	前嶋 清(昭36)
大河原邦夫(昭39)	深尾 立(昭39)	山浦 晶(昭40)	竹島 徹(昭41)
徳久 剛史(昭48)	木元 正史(昭60)	岩下 力(平元)	浦島 哲郎(平2)
清水 栄司(平2)	田嶋美智子(平3)	山口 賢一(平3)	花岡 英紀(平5)
佐藤 嘉治(平10)	浅野 由美(平12)	門脇 正美(平12)	加藤 智規(平13)
深谷 佳孝(平13)	山田 浩司(平13)	篠崎広一郎(平14)	外池百合恵(平14)
加地 竜士(平14)	山崎 一樹(平15)	齊藤江里子(平15)	河口 貴昭(平15)
野口 貴志(平16)	吉田 暁子(平17)	松村 洋輔(平17)	中易 夏子(平17)
竹下 修由(平18)	牧 聡(平18)	鈴木 謙介(平19)	李 基成(平19)
古屋 淳史(平20)	福嶋 紘子(平20)	山本 健(平20)	加藤 賢(平21)
山淵 園子(平21)	新井 隆之(平22)	今野 香織(平22)	茂田 啓介(平22)
宮本 卓弥(平22)			

研 修 プログラム

整形外科について

千葉大学大学院医学研究科整形外科

岸 田 俊 二 (群大・平10)

千葉大学医学部整形外科では、毎年10名前後の後期研修医の先生方を受け入れ、研修を行なっています。研修の最大の特徴は千葉県内外にある約50の関連研修病院と密接に協力していることです。

研修初年度は大学と関連病院を各自のプログラムで研修を行います。大学に在籍する期間は2ヶ月から長くて半年になります。大学でしか経験できない症例などを中心に各臨床グループに属して経験を積みまします。この時に同期の先生と親交を深め、絆を作ることには医師として一生の財産になると考えています。

2年目から4年目は各関連病院で研修をします。関連病院は病院ごとにさまざまな特色を持っています。外傷を中心とした地域の基幹病院や慢性疾患を中心とした病院もあります。術者として積極的にうでを磨く時です。関連病院のなかには千葉県がんセンター、千葉県こども病院や千葉リハ

打ち込めるものを見つけて欲しいと思います。

大学在籍中は各臨床グループで診療をするだけでなく、臨床研究や基礎研究をする時でもあります。国内外の学会で積極的に発表をして、専門医としての自覚と自信ができる時期だと思います。この期間に日本整形外科学会の認定する整形外科専門医の取得をします。専門医試験は取得要件が厳しいですが、千葉大学整形外科では全員が取得できるように指導しています。

病院での研修の他に、千葉大学整形外科では研究会や研修会を多数主催しています。国内外の医師や研究者を招き、定期的に講演をお願いしています。もちろん

ん大学内だけでなく、研修病院の先生方が参加し、日々の診療に役立っています。

日本は4人に一人が65歳以上という超高齢化社会を迎えています。人口動態予測では2025年にその数は3500万人に及ぶと言われています。千葉県でも同様で65歳以上の高齢者人口は2032年には174万人に及ぶと言われています。整形外科が対象とする骨、関節や筋肉といった運動器障害は高齢人口の増加に伴い急増することが予想されています。患者さんが元気に日常生活を送るためには運動器の専門家である整形外科医の力が必要です。元気な先生方の参加を期待しています。

臨床腫瘍部について

千葉大学大学院医学研究科先端化学療法学

医学部附属病院臨床腫瘍部

教授 滝 口 裕 一 (昭58)

臨床腫瘍部は2007年11月に新設されましたが、のほの同窓会の諸先生、学生の方々にまだまだ馴染みが薄いのではないかと思えます。中央診療部として通院治療室(外来化学療法を担当)の運営、化学療法レ

努力するほか、4床と小規模ながらも入院診療を行っています。外来診療では、臓器横断的がん診療を中心に、呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科などと密接な連携のもと、肺がん患者を多く診療しています。スタッフも2011年には、教授1、准教授1、助教1になり、学生の指導体制も整いました。

4年次には「総合医学ユニット」の中で臨床腫瘍学の講義を行っています。新設診療科ですのでBSL (bedside learning) 参加への具体的予定はありませんが、CC (clinical clerkship) にはできるだけ早い時期に参加し、臓器横断的な腫瘍学アプローチを是非とも学んでいただきたいと計画しています。

卒前教育

2007〜2011年の5年間、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に中心となって取り組み、千葉大の取り組みは中間評価で全国一位の高評価をいただきました。2012年以降も同様の取り組みにチャレンジする予定です。また臨床腫瘍部独自でもASCO/ESMO

(アメリカおよびヨーロッパ癌治療学会)に準拠した研修プログラムを作成し、ホームページにも掲載しています。基本的には後期研修プログラムであり、このプログラムで研修することにより「内科認定医」、「がん治療認定医」、「がん薬物療法専門医」を取得していただきます。特にがん薬物療法専門医は2006年にわずか47名の合格者でスタートし、2011年現在でも日本中に586名しかいない極めて狭き門の専門医制度ですが、千葉大学附属病院には臨床腫瘍部に5名、それ以外に2名(この2名も臨床腫瘍部での研修を通じて合格)が在籍しており、日本でも有数の病院となりました。

卒後研修プログラムの特徴は、臨床腫瘍部の診療の特徴は、臓器横断的腫瘍学の実践です。「原発不明がん」、「性腺外胚細胞腫」、「腫瘍緊急症」といってもユニットト講義前の学生にはピンとこないかも知れません。こうした疾患は従来の臓器毎の診療科ではどこにも該当するところがありませんでした。また、がん患者で意識障害を認めた時の鑑別疾患は、と問われて、脳転移、がん性髄膜炎以外にも、高

研究活動

臨床腫瘍部の後期研修医には、同時に大学院(先端化学療法学)にも入学して、がん薬物療法の基礎的研究、トランスレーショナル研究などを行うことを原則としています。分子標的治療ががん薬物療法の主役になりつつある現在、分子生物学の知識と研究方法に精通することは実際の患者を治療するためにも必須の条件となりました。研修と研究を両立するのは大変だと思えますが、困難を乗り越える熱意のある研修医を歓迎します。

新設間もない臨床腫瘍部(附属病院)と先端化学療法学(医学研究科)ですが、それだけに若い医師・研究者の育成にはこの組織の将来がかかっていると自覚しています。スタッフ一同、研修医・大学院生にはベス

トの研修・研究環境を提供すべく努力したいと心を引き締める次第です。興味のある方は、是非とも気軽にご連絡下さい。

千葉県がんセンター

副センター長・千葉大学医学部臨床教授

教授 木村 秀 樹 (昭48)

千葉県がんセンターは昭和47年11月に創設された、わが国では国立がんセンター1、愛知県がんセンターに次いで3番目にできた由緒あるがんセンターです。開院以来すでに39年を経過し、がんの治療に関しては千葉県の中核を担って来ましたが、平成17年に施行されたがん対策基本法に基づき

ある方は、是非とも気軽にご連絡下さい。

県内13のがん拠点病院(千葉大学附属病院、国立病院機構千葉医療センター、成田赤十字病院、旭中央病院、千葉労災病院、亀田総合病院、慈恵医大附属柏病院、順天堂浦安病院、東京歯科大学市川総合病院、船橋医療センター、君津中央病院、国保松戸市立病院、国立がん研究センター東病院)の中心となる都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、がん治療の均てん化、標準化、レベルアップに貢献しています。がんセンターの治療の基本方針は心と体によさしい医療として、1)患者さんの権利と自立性の尊重、2)チーム医療の推進3)患者さんに最適な医療の推進4)思いやりのある医療人の育成などに努力してきました。特に治



療面では内視鏡手術(腹腔鏡、胸腔鏡)強度変調放射線治療(MART)、脳外科のナビゲーション手術など低侵襲手術、縮小手術、放射線治療に力を入れ、平均在院日数も2週間を下まわるようになってきました。また、外来化学療法も年間16,000件を上回り全国でも5指に入るほどになつてきました。本年9月からはロボット手術としてダビンチが導入され、前立腺がんの手術に適応されました。今後さらに子宮がん、すい臓がん、肺がんなどにも適応を拡大できるように体制整備にあつていきます。また、平成15年より緩和医療センターの開設に伴い、緩和医療にも力を入れ、緩和医療センター、がんサポートチーム、在宅緩和ケア支援センターなどが一体となつて入院緩和から在宅まで切れ目のないサポートを提供しています。診療科の医師、部長は千葉大学の医局出身者が多く、副センター長(木村秀樹・昭48)医療局長(館崎慎一郎・昭46)消化器外科(永田松夫・昭53、山本宏・昭53)消化器内科(山口武人・昭56、傳田忠道・昭63)呼吸器科(飯笹俊彦・郡大・昭59)、乳腺外科(山本尚人・三重

大・昭60)、腫瘍血液内科(熊谷匡也・昭62)、脳外科(井内俊彦・昭63)、婦人科(田中尚武・昭59)、頭頸科(佐々木慶太・札幌医大・平10)、泌尿器科(植田健・平元)、麻酔科(藤里正視・昭59、阿部伊知郎・平2)整形外科(石井猛・昭56、米本司・昭62)緩和医療科(渡辺敏・北大・昭50)放射線科(幡野和男・日大・昭56)画像診断(高野英行・昭61)等は部長、スタッフとも大学からの派遣、ローテーションが主でした。しかし最近になつて臨床研修制度の改革に伴い大学からのローテーション、派遣が科によつては難しい場合も出てきた関係で、研修医、後期レジデントと一部のスタッフは他大学出身者が多くなつていきます。千葉県がんセンターは県立7病院(がんセンター、こども病院、救急医療センター、循環器病センター、精神科医療センター、東金病院、佐原病院)で組織した病院群で研修医を受け入れており昨年度は15人がフルマッチでした。がんセンターは基幹病院として、研修の主な役割を担っています。この研修は専門的な高度医療を学ぶ機会と第一線の臨床を学ぶ機会に恵まれ、離島研修、

海外研修などもできるため研修医には評価が高くなつていきます。また、開設当時から研究にも力を入れ、現在ではがん治療開発グループ、発がん研究グループ、がんゲノムセンター、がん予防センターの4部門で構成されており基礎的研究と臨床をつなぐトランスレーショナルリサーチを推進し、臨床に役立つ研究を行うことで県民の健康、福祉に還元できるよう努力しています。研究局は千葉大学の大学院にもなつていいることから、大学の博士号を取得するために、研究局で研究を行うこともできます。

研 修 医 だ よ り



千葉大学小児外科に入局して

千葉大学大学院医学研究院小児外科学

横山 由紀子 (平20)



小児外科は、とてもユニークな科です。小児科ではなく、外科ではなく、小児のための外科です。小児における外科疾患を扱う科。それは、全く大人の外科のミニチュアではありません。小児特有の疾患を熟知し、小児ならではの繊細な気の遣い方が必要で、時には内科領域にも手を伸ば

シヨナルリサーチを推進し、臨床に役立つ研究を行うことで県民の健康、福祉に還元できるよう努力しています。研究局は千葉大学の大学院にもなつていいることから、大学の博士号を取得するために、研究局で研究を行うこともできます。

し、他科との橋渡しをし、成長を遂げた今や立派な青年たちをも相手にします。救急疾患もわんさか来ますし、産まれたての新生児に手術をすることも稀ではありません。少子化の昨今、子供たちの命を救う重要な使命を与えられた分野だと自負しております。前置きはさておき、一人前の小児外科医になるためにはかなりの時間と覚悟が必要です。初期研修2年間の後、小児外科に入局した後、外科専門医を取得するために心臓血管外科2カ

月、呼吸器外科2ヵ月、成人外科1年をローテートします。小児の集中治療などにもあたためるため、小児麻酔を経験すべく麻酔科も3ヵ月ローテートします。症例経験を重ね、外科専門医取得後、小児外科専門医を目指します。学術論文も必要となるため、当科では大学院の入学を基本とし、そこで基礎研究のいろはを学ばせていただく機会を与えていただいています。昨年入局してから、小児外科での研修の他に、呼吸器外科、麻酔科、心臓血管外科でも研修させていただきました。それぞれ短い期間ではありましたが、他科の先生方と一緒に働いたことは、症例経験を積むこと以上に、考え方を学んだり、人間関係を築く上でも非常に有意義でした。また、日々の診療の中で、小児科をはじめ様々な診療科にお世話になっていきます。小児医療は、成人では難なくできるようなことも、いちいち人手も時間もかかり、医療従事者にとつての負担も大きいです。しかし、快くコンサルトを引き受けてくださり、検査をしてくださる、他科の先生方やコメディカルの方にもいつも助けていただいています。

では、なぜ、そんな大変な科に進んだのか。よく聞かれる質問です。実際、日々遅くまで臨床業務に加え、学会発表やカンファレンスなどの業務に追われ、休日も緊急があれば呼び出しがかかり、忙しくないと言えは嘘になります。しかし、小児外科に進んで心からよかったですと思っています。今はまだできる仕事は限られています。予演会は1度で終わってしまいがちで、自分のふがいなさにへこたれますが、その分本番で自信を持って発表することができそうです。自分もきちんと一人前の小児外科医になり、この文化を下の世代に受け継いでいくことで、小児外科の息吹を絶やさず、子供たちが安心して大きくなれるような社会を築くための手助けができればと思います。

医局の先生方も、人生の大先輩として非常に尊敬できる方々に恵まれ、厳しい指導の中にも愛情を感じる日々です。臨床の現場での

アレルギー膠原病内科での後期研修半年を終えて

アレルギー膠原病内科

牧田 莊平 (平21)



私は平成21年に千葉大学

を卒業し、川崎市立川崎病院での初期研修を経てアレルギー膠原病内科医を志し、平成23年に千葉大学医学部アレルギー膠原病内科に入局しました。当科では入局後は関連病院で2年間

指導もさることながら、学会発表や研究論文などの指導が非常にアツク、(時々逃げ出したくなることもありますが...) 基本的なことから、微に入り細に入り、丁寧に指導してくださいませ。予演会は1度で終わってしまいがちで、自分のふがいなさにへこたれますが、その分本番で自信を持って発表することができそうです。自分もきちんと一人前の小児外科医になり、この文化を下の世代に受け継いでいくことで、小児外科の息吹を絶やさず、子供たちが安心して大きくなれるような社会を築くための手助けができればと思います。

の内科後期研修を終了したのち、大学病院で勤務するのが一般的ですが、専門性に特化した診療を行う大学病院で他の内科を経験させていきたいと思います。考え、入局1年次から大学病院に勤務しています。今後の予定として、来年度より2年間にわたり関連病院にて内科研修を修了したのち、再び大学病院病棟医として1年間診療にあたることになっています。関連病院の選択についても、自身の希望した病院での研修を取り計らっていただけました。以上から医局員の希望に配慮いただける医局であることがお分かりいただけると思います。次に、大学病院での診療についてですが、一番の特徴は初発の症例が非常に多いことです。自分が昨年まで在籍していた病院は地域の中核となる自治体病院でしたが、それでも膠原病の初発症例は2か月に1症例あれば多いほうでした。毎月何例もの初発症例を経験できるのはやはり「大学病院ならではの」だと思います。

当科では毎週水曜日にカンファレンスを行い、中島裕史教授を始め諸先輩先生方への的確な助言を頂きながら、入院患者さん一人一人

の治療方針を確認しています。特に膠原病の治療では標準治療が奏功しないケースや副作用で変更を余儀なくされるケースが多く、これが膠原病領域の醍醐味だと思っております。数多くの新しい免疫抑制剤・生物学的製剤を駆使し、かつ副作用に気を配りながら重篤な疾患に対処する必要があり、最新の文献を検索できる施設がそろっており、

同窓会員著書の紹介

服部 孝道 (昭42) 著

私が理解した太平洋戦争



鈴木 信夫 (昭47)

服部孝道先生には、ご専門の神経内科学ならぬ医療経済、さらに、日本や世界の経済情勢一般に関してお話しを聞く機会をしばしばいただいております。その達観にはいつも敬服する次第でした。ところが、今回、太平洋戦争を主題と

先輩先生方のご意見をいつでも伺える大学病院は医療を学ぶにおいて非常に良い環境だといえます。膠原病は比較的若年の方も罹患し、かつ命に関わる疾患であるため、苦労は多いですがそれだけ遣り甲斐のある領域だと思います。興味のある方は是非当科での後期研修にご応募ください。

体験を踏まえ、多方面からの視点を加えている点です。時間軸も、昭和に限ることなく、明治期からの回顧を踏まえており、特筆に値します。折しも、平成23年東日本大震災における大津波を経験し、はたまた福島第一原子力発電所の事故に遭遇し困惑している日本の窮状は、明治から昭和を駆け巡ってきた趨勢と、本筋において何ら変わらないとの論があります。即ち、想定外への淡い期待を持ち続けている日本人の体質があるというのです。司馬遼太郎著の「坂の上の雲」と共に併読すると、なお一層、本書の貴重さを味わえることでしょう。自費出版物であり、数少ない中からの一冊をいただけたものです。一個人の書棚に置いておくには余りにももったいないことでもあり、今後設置予定のものは同窓会本部オンライン書庫へ寄贈させていただきます。会員の皆様には、是非、貸し出しを受け、手に取ってご覧ください。特に、若い会員の方々へお勧めです。情に流されることなく、冷徹に日本の将来を考える糧となることでしようから。



あすか製薬株式会社

〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号 Tel.03-5484-8361(代)

http://www.asuka-pharma.co.jp/



小倉 明、篠宮 正樹(昭50) 著 未来マシーンにようこそ

汐文社

定価一、四七〇円(税込)
野村 文夫(昭50)

平成23年7月に札幌市で開催された日本動脈硬化学会で篠宮氏が報告されました。今回の童話の発刊はその活動を通して誕生したものです。

あのはな同窓会員がともユニークで有意義な取り組みを精力的に続けています。篠宮正樹氏(昭50)が理事長を務めるNPO法人「生活習慣病に取り組み市民と医療者の会」(愛称小象の会)は2005年に有志により立ち上げられました。小象の会のメンバーは生活習慣病予防の大切さを説き、一般市民に正しい医療情報を得る場所を提供するキャンペーン活動を進めています。このグループの着眼の素晴らしさはその活動の対象として子どもたちとその心を大事にしていることです。篠宮氏の言葉を借りれば、「子どもの自尊心を育てることで生活習慣病を予防する」を基本コンセプトとして、子ども達に生活習慣病予防の重要性を説いています。その活動内容は

「未来マシーンに出会う第3部、そして第4部では伝兵衛は西暦250年の地球にいます。各章末には篠宮医師のわかりやすい解説があります。子ども達に童話を通して、生命の不思議さ、生まれたことへのかけがえの無さ、身体がどれほど素晴らしいか学んで

もらい、そのことが自分の身体を大切にしようという思いにつながるの期待が込められています。本書の巻末には篠宮先生の恩師にあたる千葉大学学長齋藤康先生が推薦の言葉を寄せられています。そこには、みずからの健康を保

松永 正訓 著

がんを生きたる子

ある家族と小児がんの終わりなき闘い

講談社

定価一、五七五円(税込)
松永 正訓(昭62)



2008年と2009年にも講談社から闘病記を出版したので、本作は三作目のノンフィクションということになります。しかし前の二作と大きく違う点が二つあります。一つは長編ということ。そしてもう一つは、本の骨格が家族へのインタビューで成り立っているということです。この聞き取りは10カ月にも及びました。本書は、主人公の女兒が

つための行動が出来る大人になるために子どもの頃から体と健康の大切さを教えるべきと書かれています。そのメッセージは本書を通して、楽しく、わかりやすくそして広く、子どもたちにも伝わるものと思います。

立ち向かっていきます。家族は困難を乗り越えたように見えるし、まだその途中にいるようにも見えます。そして、家族と小児がんの闘いに終わりが無いということが最後の場面で暗示されます。まさに「終わりなき闘い」です。書き終えてみれば、およそ20年間の家族の歴史を描いたことになりました。本書を単なる闘病記にとどめることなく、家族が目指す幸福の姿とは何なのかと考えると、家族一人ひとりの生き方を深く表現したつもりです。執筆に際しての技術的なことについて少し触れておきます。担当の編集者とはノンフィクション文学において、いかなる事実をどう描くのかということについて議論を重ね、「語り口」と「視点」を磨き上げました。原稿は五稿まで進み、脱稿後に不要な部分を削りに削りました。最後には、一つの言葉、一つの文字にこだわって本を完成させ、自分なりの渾身の一作に仕上げられました。カバーデザインに使用されている絵は、いわさきちひろさんの作品です。同窓の皆様にはぜひお読み頂きたいと思えます。

参加費：医師のみ 1,000円 (研修医、学生は不要)

第5回 ちば Basic & Clinical Research Conference 開催のお知らせ

日時 平成24年2月4日(土) 14:00~18:00

場所 京成ホテル ミラマーレ 6階ロースルーム 千葉市中央区本千葉町 15-1 TEL: 043-222-2111

※本研究会はスカラーシッププログラムの講義としても位置づけております。

【Opening Remarks】 14:00~14:10
千葉大学大学院医学研究分子ウイルス学 教授 白澤 清 先生
千葉大学大学院医学研究整形外科学 教授 高橋 和久 先生

【第3部】 学生演題 15:45~16:45
座長 千葉大学大学院医学研究分化制御学 助教 坂本 明美 先生
東邦大学医療センター佐倉病院整形外科学 講師 中島 新 先生
(4演題)

【事務局】
千葉大学大学院医学研究整形外科学 大島 精司
電話: 043-226-2117 (内線5303,5304)
FAX: 043-226-2116
E-mail: sohtori@faculty.chiba-u.jp

【第1部】 講座紹介 (各講演20分質疑5分) 14:10~15:00
座長 千葉大学大学院医学研究臓器制御外科学 講師 吉留 博之 先生
【糖尿病はなぜ増え続けるのか?】
千葉大学大学院医学研究代謝生理学 教授 三木 隆司 先生
【難治性統合失調症の治療】
千葉大学大学院医学研究精神医学 教授 伊藤 雅臣 先生

【第4部】 特別講演 16:45~17:45
座長 千葉大学大学院医学研究生腫瘍機能病態学 教授 生水真紀夫 先生
【「選発性ウイルス感染症に携わって39年 一特にB型肝炎ウイルス母子感染対策について」】
獨協医科大学 学長 稲葉 憲之 先生

【世話人(敬称略)】
千葉大学大学院医学研究院長 中谷 晴昭
千葉大学医学部附属病院院長 宮崎 勝
千葉大学大学院医学研究小児病態学教授 河野 陽一
千葉大学大学院医学研究分化制御学教授 剛史 剛史
千葉大学医学部医学教育研究室教授 白澤 清
千葉大学大学院医学研究整形外科学教授 高橋 和久
千葉大学大学院医学研究分化制御学 坂本 明美
千葉大学大学院医学研究整形外科学 大島 精司

【第2部】 メーカーセッション 15:00~15:15
座長 千葉大学大学院医学研究病原分子制御学 教授 野田 公俊 先生
【「ヘリコバクター・ピロリ」三次除菌療法】
千葉大学医学部附属病院消化器内科 助教 新井 誠人 先生

【第5部】 学生演題 表彰式 17:45~17:55
千葉大学大学院医学研究院長 中谷 晴昭 先生
【Closing Remarks】 17:55~18:00
千葉大学医学部附属病院院長 宮崎 勝 先生
千葉大学医学部医学教育研究室 教授 田邊 政裕 先生

【休憩】 コーヒーブレイク 15:15~15:45

【情報交換会】 18:00~

共催：ちば Basic & Clinical Research Conference
千葉医学会 / 第一三共株式会社

会員から

千葉大学医学部山中湖村

夏季診療グループの紹介

医学部6年 橋本 理

この度私が代表を務めさせていただきます。最初に山梨県山中湖村の活動拠点となる千葉大学山中寮の建物に集合し備え付けの登山靴やザック、夜間用ヘッドライトなどを準備します。そこから救護所専用車に乗りかえて富士スバルラインを通り富士山五合目に向かいます。五合目に到着しましたら救護所のある七合目まで登山となりますが、道はかなり整備されており初心者の方でも約一時間半程度、体育会系の学生でしたら40分程度の行程です。七合目に到着致しましたら前任の先生・学生と交代し救護所での活動が始まります。

し、小旅行のような感じですが、最初に山梨県山中湖村の活動拠点となる千葉大学山中寮の建物に集合し備え付けの登山靴やザック、夜間用ヘッドライトなどを準備します。そこから救護所専用車に乗りかえて富士スバルラインを通り富士山五合目に向かいます。五合目に到着しましたら救護所のある七合目まで登山となりますが、道はかなり整備されており初心者の方でも約一時間半程度、体育会系の学生でしたら40分程度の行程です。七合目に到着致しましたら前任の先生・学生と交代し救護所での活動が始まります。

一日にくる患者の数は3、4人の時もあれば、登山客の多いお盆の時期等は10人以上にもなることがあります。疾患の内訳としては高山病の患者が最も多く、次いで感冒、外傷などがあります。学生は先生が診療をする際にはバイタルをとったり器材の準備をしたりといった診療



鎌岩館 左から1人目女将 2人目ご主人

の補助を行ないます。低学年の学生の場合こうした医師と患者のやりとりや治療を間近で見るとは初めてという人が多く、たいへん良い経験になります。また上級生になると問診や予診を

い知見や様々な考えを得ることができ刺激になるといふことも学生にとつてはこの活動の大きな魅力のひとつです。それでは続いて診療以外の時間をどう過ごしている

取らせていただいたり大の講義や実習で学んだことを実践できる良い機会になっていきます。救護所に来て頂いている先生方は千葉大卒でこの活動のOBである先生が中心ですが年代、専門、勤めている病院と様々な先生方がいらっしゃっており、こうした普段関わることができない先生とお話することで新し

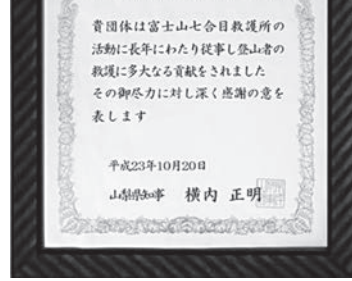
か、という部分についてご紹介致します。食事に関しては救護所のすぐ近くに鎌岩館という山小屋があり、朝、昼、晩の三食はこちらで用意してもらっています。この鎌岩館にはその他にもお手洗いをお借りしたり、電気やガスを供給していただいたりと様々な面でこの活動に貢献していただいています。また運営学生



救護所から見る景色

最後にありますが、昨今の「山ガール」という言葉に訪れる数十万人の登山客のお目当てである景色が寝所からみられる贅沢は、他では決して体験できません。最後にありますが、昨今の「山ガール」という言葉

に代表される登山ブームで救護所のニーズが年々高まっている一方で、近年の医師不足の深刻化によって厳しい運営が続いています。現在は活動OBの先生方中心ですが、他大学出身の先生方や、また女医の先生方がいらつしやる機会も増えてまいりました。ご家族やご友人の同行も歓迎致します、先生方のご連絡お待ちしております



平成23年10月20日
山梨県知事より表彰されました。

千葉大学医学部山中湖村
夏季診療グループ
代表連絡先
mail: welove.yamanaka@hotmail.co.jp
tel: 080-2042-8401



救護所の前にて (交代時)

東日本大震災体験記

(医) きし内科クリニック

岸 幹 夫 (昭58)

この度は、おのほな同窓会より、過分なお心遣いを賜りましたこと、また、遠路はるばる石巻市の当院まで激励にお越し頂いた会長伊藤先生、副会長の鈴木先生、大変ありがとうございました。東北の地に参りまして15年の歳月が流れましたが、この度の震災で大きな被害を被り、意気消沈しておりました小生にとりまして大きな励みとなりました。

直下型大地震や東海地方の連動型巨大地震の発生が懸念されている昨今、小生の大震災の体験が少しでも皆様のお役に立てればと思ひ、筆を執らせて頂きます。 2011年3月11日、午後の診療を開始していますと、突然、このまま日本が沈没してしまうのでは無いかと錯覚するような激しい揺れが起こりました。揺れの弱まった頃をみはかり、倒壊するおそれのある建物内に留まるのは危険と判断、職員ともどもクリニックの正面玄関から、駐車場に避難しました。

で、反対車線の郊外に向かう大渋滞の車列を横目に見ながら高台に向かいました。10分くらいで頂上にあがりましたが、その頃には自宅周囲には津波が到達していたのかも知れません。しかし、津波の物音は耳に届かず、また津波その物を直接眼にすることも無く、小雪がちらつき始める中を、長男を引き取ると、さて次はどうしたものかと思ひました。たまたま長男の友人が学校玄関で一緒に居て、身元引受け人となり、高台在住のその彼の元に一時避難させて頂く事となりました。

外に出てからも大地はうねり、電信柱や電線も、大きく波打っていました。小康状態となると、職員には指定された避難所に行くように指示し、私自身は、自宅に戻り、防寒対策をしてから避難しようと考えましたが、自宅は電気錠のため停電で外から開けることが出来ず途方に暮れかけていました。しかし、幸運にも、たまたま当日は長女が休校日で、大声で名前を呼んだ所、しばらくして玄関から顔を出しました。物の散乱した家の中で、防寒具を見つけ、貴重品だけを取り、速やかに外に出ました。外出していた妻も帰宅し、避難の準備を済ませると、妻と長女、義母の四人で高台に向かう事を決めました。車を使うこともできませんでした。災害時は車での避難は危険と考え、高台にある高台に通っている長男を迎えがてら、徒歩で避難することになりました。(当日すぐにまた戻れるだろうという甘い考えもありました。)足の遅い義母の歩く速度

で、反対車線の郊外に向かう大渋滞の車列を横目に見ながら高台に向かいました。10分くらいで頂上にあがりましたが、その頃には自宅周囲には津波が到達していたのかも知れません。しかし、津波の物音は耳に届かず、また津波その物を直接眼にすることも無く、小雪がちらつき始める中を、長男を引き取ると、さて次はどうしたものかと思ひました。たまたま長男の友人が学校玄関で一緒に居て、身元引受け人となり、高台在住のその彼の元に一時避難させて頂く事となりました。

アも津波の衝撃で吹き飛ばし、一階全体に瓦礫とヘドロが堆積していました。エコー、内視鏡、心電計、レントゲン装置など全ての医療器械と、パソコン、紙カルテがヘドロに埋もれていました。2階は、わずかのところで床上浸水を免れていました。赴任した際に、過去に浸水被害に遭っていることを聞かされたため、電子カルテ、CR、エコー、心電図などの電子データは2階に保存するようにはしていました。おそろのおそろサーバーのある部屋のドアを開けるとパソコンとデータ保管用のフロッピーが辛うじて机に載っていました。1階の紙カルテはヘドロまみれで、全く使い物にならなくなりましたが、データは震災前と全く変わらず使える事に、改めて、ITの威力を感じました。当初、自宅やクリニック

停電し、携帯電話も不通、ラジオもない不安な時間が過ぎました。避難先でわずかの夕食を済ませ、窓の外を見ると、石巻湾側の空が薄赤く照らし出され黒煙が棚引いているのが見えませんでした。取る物もとりあえず避難したため、生活用品はおろか、診療道具も持ち合わせず、救助活動に思いを致すような状況ではありませんでした。

翌12日早朝、高台から周囲の平地を一望、多くの家が倒壊、流出しているのを目の当たりにし、夢か幻で有って欲しいと祈るような

が壊滅状態で、救護活動に積極的な参加をするという気持ちになれませんでした。が、徐々に気を取り直し、避難先から一番近い救護所での救護活動に参加することにしました。当院に通院していた患者さんも多く受診し、無事の再会を喜び合いました。

震災から一週間後、仙台の中学に通学し、音信不通だった次男が、教習な経過をたどり、隣市の見ず知らずの家庭に保護されていることが判りました。ちょうど下校時刻の地震で、電車に乗っていたら、津波で脱線、海中に転覆した電車の中の一人だったかも知れず、家族ともども、不安な日々を過ごしていました。

電子カルテのデータが完全な形で残り、つてを頼って調達した発電機を使い、電気、水道、ガス、電話の全ライフラインが絶たれた中で、4月中旬には2階に仮設診療所を再開出来ました。患者さんは大分減りましたが、近隣の、内科4軒、眼科1軒、産婦人科1軒、皮膚科1軒が廃院となった状況で、少しでも地域医療に貢献できるよう復活を計りたいと思います。



平成 23 年 8 月 21 日、きし内科クリニック内にて「岸幹夫先生へ伊藤晴夫会長より義援金をお渡しする様子」

クリニクの正面玄関下

当初、自宅やクリニック

が壊滅状態で、救護活動に積極的な参加をするという気持ちになれませんでした。が、徐々に気を取り直し、避難先から一番近い救護所での救護活動に参加することにしました。当院に通院していた患者さんも多く受診し、無事の再会を喜び合いました。

下行性疼痛抑制系賦活型 疼痛治療剤(非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害)

疼痛(非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害) スモン後遺症(冷感・異常知覚・痛み)、アレルギー性鼻炎・そう痒

ナイトロピン錠4単位 ワクシニアウイルス接種家畜炎症皮膚抽出液含有製剤(薬価基準収載)

ナイトロピン注射液3.6単位 生物由来製品 処方せん医薬品 ワクシニアウイルス接種家畜炎症皮膚抽出液含有製剤(薬価基準収載) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元 **日本臓器製薬** 〒541-0046 大阪市中央区平野町2丁目1番2号 ぐすりの相談窓口 ☎06-6233-6085 資料請求先: 學術部 2011年2月作成 土・日・祝日を除く 9:00~17:00

ホットな情報を同窓会ホームページから！

<http://www.inohana.jp/>

クラス会のご案内やご相談を同窓会掲示板で
そのご報告をオンライン会報へ掲載 いろいろとご活用ください。

オンライン会報へのアクセスは <http://www.inohana.jp/online/index.html>

の は な

千葉大学医学部 の は な 同 窓 会



本会は千葉大学医学部の発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、医道の昂揚に努めることを目的としています。

オンライン会報

同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介

さくさべ坂通り診療所の紹介

・在宅ホスピスを牽引する診療所
院長 大岩孝司



▶ 映像を見る

[2011.11.14 掲載]

・緩和医療は、死を見据えた医療である
職員一同との座談会



▶ 映像を見る

[2011.11.14 掲載]



▶ 映像を見る

透析合併症（シャント・透析アミロイドーシス）の治療に特化した「日帰り手術クリニック」
森田シャントアミロイド治療クリニック 院長 森田（石井）弘之
[2011.8.26 掲載]



▶ 映像を見る

妊産婦・新生児にやさしい産婦人科病院
まつしま病院
▶ WEBサイト
名誉院長 神山一郎
[2011.2.4 掲載]



▶ 映像を見る

葛西に根付いた内科クリニック
森内科クリニック
▶ WEBサイト
院長 森 照男
副院長 森 順子
[2010.12.27 掲載]



▶ 映像を見る

インフォームドコンセントと産後のフォローを重視した産科医療
岩倉病院
▶ WEBサイト
院長 岩倉弘毅
副院長 岩倉孝雄
[2010.12.27 掲載]

- 同窓生開院紹介 はなまるキッズクリニック 三浦信之(昭61)先生 [2008.9.11 掲載]
- 「利用者・医師・住民が一体となった 自律生活支援」
大場 敏明 (昭 48) クリニックふれあい早稲田院長・医療法人財団アカシア会理事長 NPO サポートネット ほっとピア顧問 [2008.1.11 掲載]

オンライン会報掲載動画リストの例

◆ 生涯学習講座

1	臨床栄養講座 - 医学教育における代謝・栄養学 -	済 陽 高 穂	西台クリニック
2	県民の安心と安全を守る医療 災害時医療 在宅医療を含めて 2011 日本呼吸器学会の報告より	巽 浩一郎	千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学
3	間欠性跛行の病態と最新の低侵襲治療	出 沢 明	帝京大学医学部附属溝口病院
4	第 87 回千葉医学会学術大会		
	眼科学に寄す	安 達 恵美子	千葉大学
	Last Frontier に向かって	山 本 修 一	千葉大学大学院医学研究院 眼科学
5	第 7 回産婦人科診療レベルアップセミナー		
	・産科危機的出血への対応	田 中 宏 一	千葉大学附属病院周産期母性科
	・CTG の読み方 - 基礎から応用まで -	生 水 真紀夫	千葉大学大学院医学研究院 生殖機能学
6	肺癌外科治療の up to date	吉 野 一 郎	千葉大学大学院医学研究院 胸部外科学
7	前立腺がん治療の最前線 - 高密度焦点式超音波治療 (HIFU) の概要 -	植 田 健	千葉県がんセンター
8	ウイルス肝炎治療における最新の課題	横須賀 収	千葉大学大学院医学研究院 腫瘍内科学
9	小児外科学の最新情報	吉 田 英 生	千葉大学大学院医学研究院 小児外科学
10	医療紛争相談センターの医療ADRについて	山 下 洋一郎	千葉県医師会顧問弁護士 / 医療紛争相談センター
11	前立腺癌の予防医学	伊 藤 晴 夫	るの は な 同 窓 会 会 長
12	前立腺癌の診断と治療：地域連携のあり方をふくめて	鈴 木 啓 悦	東邦大学医療センター佐倉病院
13	学校保健に関わる問題	杉 田 克 生	千葉大学教育学部
14	第 8 6 回千葉医学会学術大会		
	・外科医 - 血管外科医の回想 ニューヨーク～大阪～千葉での経験から	中 島 伸 之	千葉大学
	・肝胆膵外科 - 世界の現況と今後の課題	宮 崎 勝	千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学
15	千葉大学の「がんプロフェッショナル養成プラン」について	滝 口 裕 一	千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学
16	千葉大学公開講座		
	老化と漢方	寺 澤 捷 年	千葉大学大学院医学研究院 和漢診療学
17	医学教育における代謝栄養学 - 食事によるガンの改善 -	済 陽 高 穂	西台クリニック
18	救急集中治療学の紹介と重症敗血症 / 敗血症性ショック に対する最新の治療	織 田 成 人	千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学
19	肝胆膵外科における最新情報	宮 崎 勝	千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学
20	異常死の死因究明は司法解剖へ統合する	岩 瀬 博太郎	千葉大学大学院医学研究法医学

がんと、対話する。

アストラゼネカは、さまざまな活動を通し、病氣と向き合うすべての人たちの心の支えとなる活動に、今、取り組んでいます。

がんと対話、それは人生との対話、希望との対話。



アストラゼネカ株式会社 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 http://www.az-oncology.jp アストラゼネカは英国に本社を置く新薬開発をリードする世界的な医薬品企業です。

マクロライド系抗生物質製剤(薬価基準収載)
処方せん医薬品® クラリスロマイシン製剤
日本薬局方 クラリスロマイシン錠

クラリス錠 200

日本薬局方 クラリスロマイシン錠

クラリス錠 50小児用

クラリスドライシロップ10%小児用

注) 注意一医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」は添付文書をご参照ください。

発売 [資料請求先]
大正富山医薬品株式会社
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1

製造販売
大正製薬株式会社
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1



インタビュー

徳島文理大学保健福祉学部教授

多田羅 勝義先生(昭52)に伺う



平成23年11月11日(土) 徳島にて

(聞き手)

千葉大学教育学部教授

杉田 克生(昭54)

―四国ゐのはな会の歴史― 四国は千葉大学の出身者が非常に少なく、私の同級生は四国出身者が3人いたのですが、四国に戻ったのは私1人です。同窓会などなかったのですが、2000年になり四国でゐのはな同窓会を開催しようという事になりました。2000年4月22日に初めての四国ゐのはな同窓会が高知で開催されました。高知医大の小越章平先生(昭36)が中心になって開催されました。小越先生には初代会長になっていただき、その場で今後四国4県で順番に開くという事になりました。

―四国ゐのはな会の現状― 四国ゐのはな会の現在の会員数は名簿では40名前後ですが、現在は四国在住でない方もいらっしゃると思います。 会長は、初代が小越先生、2代目が愛媛大学にいられた牧野英一先生(昭42)、牧野先生ご退官後は香川で

―徳島の医療事情について― 四国には戦前は医学部がなく、岡山大学や大阪大学から医師が来ていました。戦後、徳島大学に医学部ができ、昭和44年頃に愛媛大学に医学部ができるまで、ずっと四国で医学部があるのは徳島大学だけだったのです。そのような事情で四国の中では徳島は医師に恵まれていました。現在は、四国各県に医学部ができましたが、徳島大学も含めいづれも地元出身の学生は少なく、さらに卒業後は県外へ出てしまう者が多いです。また徳島の場合、医師は都市部に局在しており、南部や西部では全く大変な状況です。

―徳島救急医療について― 救急については、県立病院が3つあります。さらに徳島市民病院、徳島赤十字病院、徳島大学病院といったところが救急の主な拠点です。絶対的な勤務医の不足がすべてに共通の問題です。特に周辺地域でその傾向が著しく、県としても地域講座を設けたり、中央から応援に行くなどの体制をとっていますが、まだまだです。交通事情から県内の移動が難しく、さらに四国全体としても移動の不便さはなかなか都会の方には理解していただけないのではないかと思います。このような事情も、若い先生にとつて魅力に欠けるのではないのでしょうか。

―母校について― 母校の様子は非常に気になります。会報が届いた時には、端から端まで見ます。私事ですが、家内が女子医大卒なのですが、私立でするので組織がしっかりしている30年目には母校に招待されて、母校の現状を紹介してくれるそうです。同窓会を兼ねて、大学に集まるわけです。招待といっても旅費が出るわけではないのですが、30年目の同窓会は大学でということなので、毎年その対象学年が大学で同窓会を行っているそうです。そういうのを聞くと非常に羨ましく思いますね。

―四国に赴任して― 先日も他大学の小児科の先生ですが、お遍路さんに来られました。ある程度年齢になると四国もなかなか魅力的なところなのかもしれないですね。吉野川の流れをのんびり眺めているのもなかなか乙なものです。都会のまねをしても仕方ないので、逆にまねをしないと開き直るのも過疎地に住むコツかもしれません。私は卒業して15年間東京に住んでおりました。東京が嫌いではないのですが、満員電車での通勤などを考えるともう戻りませんね。今は自宅から職場まで4kmくらいなので、そのうち歩いて通勤しようと考えています。

取材後の感想(杉田) 徳島・文理大学教授多田羅勝義先生に、四国ゐのはな会の現状、徳島県の医療の特色、また徳島大学医学部に講義をされているので地方大学医学部卒業生の進路などについてお話しいただきました。母校への思いを新たな提案も含め語っていただきました。ゐのはな会地区部会の活性化を図るためにも、ゐのはな同窓会報やオンライン会報を役立てていければと願うところです。



Advertisement for Janssen (ヤンセンファーマ) featuring the text 'これまで、これからも、「患者思考」' and 'janssen ヤンセンファーマ株式会社'.

勝どきビュータワークリニックの紹介

岸 直弘 (昭61)

この度東京都中央区勝どきに平成23年7月2日勝どきビュータワークリニックを開院致しました。私は千葉大学卒業後千葉大学第三内科に入局し、諸先輩方のご指導を受け循環器内科学を中心とした内科医を26年続けてまいりました。この誌上をもちましてお世話になった諸先生方に御礼申し上げます。



さて東京都中央区というと江戸時代から栄えていた日本橋、銀座が有名ですが、隅田川河口にあたるこの地域は明治時代に埋め立てられた歴史的には比較的新しい地域です。道路でいうと晴海通りと清澄通りが交差している所です。勝どきという地名も日露戦争の旅順陥落で隅田川に架かる橋が勝どき橋と命名されたこと

に由来するそうです。この地域は路地が多く古い住宅が多数見られ下町情緒が感じられます。飲食店も多数あり隣の月島と共に「もんじゃ焼き」で有名です。また築地市場が近いため寿司屋や居酒屋が多く美味しいうの魚がいつでも食べられます。都営地下鉄大江戸線が200年に開通し勝どき駅ができる高層マンションが立ち並ぶようになり現在は高層マンションと下町が共存した町となっております。都心まで公共交通機関を利用しなくても徒歩、自転車などで通勤可能です。当院がある勝どきビュータワーも55階建ての高層マンションです。上階からの眺望は天気の良い日には東京湾、その先に東京タワー、富士山が一度に見えて絶景とのこと。このマンションは勝どき駅前地区第一種再開発事業により誕生し当院はその2階の商業フロアにあります。都営地下鉄大江戸線勝どき駅直上にはエスカレーターに4回乗れば2階の当院に雨に濡れ

ず到着できます。院内の設備ですが東芝の16列マルチスライスCT (Alicion) を設置しました。頭部、胸部、腹部CTの他、歯科のCTも行っております。他にデジタルX線撮影装置、超音波診断装置 (東芝 (Kario)、心電計、ホルター心電図、上部消化管内視鏡があります。患者さんはこのマンションの住人の他、勝どき近辺に住んでいる方や近くの会社に勤務している方が中心です。またマンション内に保育所があるため小児科の患者さんも時々来院されます。当院の診察室は対面式で机をはさんで患者さんに向かい側に座ってもらいます。患者さんの椅子も背もたれがある椅子にしています。問診に力を入れ患者さんにリラックスして症状などを話してもらえらるよう心がけています。聴診



新あのはな同窓会館設立事業会募金状況報告書

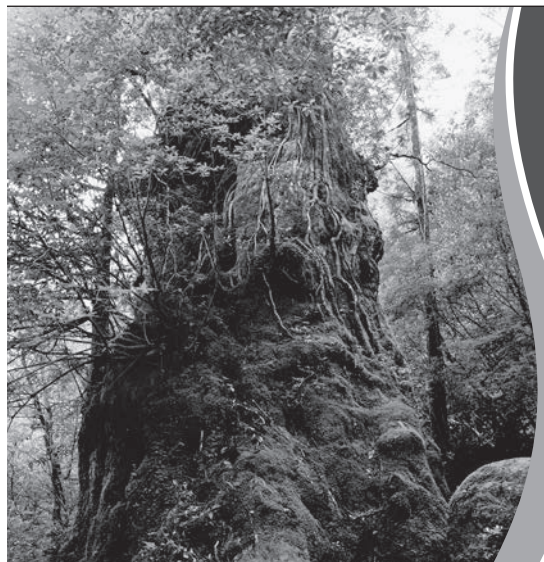
平成23年10月31日現在

寄付者	千葉大学基金		あのはな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	121	44,574,000	14	2,890,000	135	47,464,000
教職員 (元職員も含む)	172	20,902,000	117	3,740,861	289	24,642,861
同窓会会員	1,447	111,160,000	911	38,193,745	2,358	149,353,745
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合計	1,806	181,474,000	1,091	47,554,606	2,897	229,028,606

の時はベッドに移っていただいて診察しております。プライマリケアに重点を置いた診療をしております。近くには聖路加国際病院や慈恵医科大学病院など大病院がありますので症状

の重い患者さんや専門医の診察が必要な患者さんはそちらへ紹介しております。患者さんに何でも気楽に相談できるかかりつけ医になれるよう最新機器を導入して患者さんの健康促進に努めることを目標にしております。また労働衛生コンサルタント、日医認定産業医の資格を利用して大江戸線沿線の企業健診を産業医活動しながら増やしていきたい所存です。

あのはな同窓会の皆様方には今後ともお世話になることもあるかと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。



プロトンポンプインヒビター
処方せん医薬品[®] 薬価基準収載
タケプロン® カプセル15・30
OD錠15・30
静注用30mg
(ランソプラゾールカプセル&口腔内崩壊錠、注射用ランソプラゾール)

処方せん医薬品[®] 薬価基準収載
ランサップ® 400・800
(ランソプラゾールカプセル、日本薬局方アモキシシリンカプセル、日本薬局方ククラシロマイシン錠)

処方せん医薬品[®] 薬価基準収載
ランピオンパック®
(ランソプラゾールカプセル、日本薬局方アモキシシリンカプセル、日本薬局方メロニダゾール錠)
注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌(原則禁忌を含む)、使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
武田薬品工業株式会社 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
http://www.takeda.co.jp/

(平成23年10月31日現在)

新るのほな同窓会館設立事業募金状況

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に
 始めました募金につきまして、下記の方々、施設、
 団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館
 の銘板に刻させて頂きたく存じます。なお、日頃
 よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等
 におかれましても、なお一層のご支援を賜れませ
 ば誠に幸甚に存じます。

佐藤 大悟	高橋 健太郎	野村 加奈子	山田 由美
佐藤 孝太郎	高橋 はな	林 康子	山本 里美
佐藤 明日香	田中 美砂子	林 宏樹	山本 太郎
佐藤 健吾	田中 勇氣	樋口 一樹	山口 圭太
佐本 健二	田村 和之	古谷 大輔	山口 康平

芳名板デザイン

寄付者一覧

(敬称略)

一般個人

片野 鈴枝
 久保田勘也
 稲瀬 道和
 進藤 輝山

医療機関

(医) 大平会嶺井第一病院
 上都賀総合病院
 三田川鉄千葉病院
 埼玉県厚生連 熊谷総合病院
 (医) 社団よつ葉会介護老人
 保健施設 さかき光陽
 (医) 三愛記念病院
 (医) 三愛記念が病院
 下都賀総合病院
 (医) みほま病院
 聖隷浜松病院
 聖隷佐倉市民病院
 聖隷横浜病院
 千葉中央メディカルセンター

企業・法人等

赤星工業(株)
 旭化成ファーマ(株)
 あすか製薬(株)
 アステラス製薬(株)
 アストラゼネカ(株)
 アルフレックスファーマ(株)
 石井食品(株)
 (株) 石渡商事
 (株) ウチダ和漢薬
 栄研化学(株)
 エスエス製薬(株)

イーザイ(株)
 エース損害保険(株)
 (株) エスアールエル
 エルメッドイーザイ(株)
 大塚製薬(株)
 (株) 大塚製薬工場
 小野薬品工業(株)
 科研製薬(株)
 化研生薬(株)
 鹿島建設(株)
 勝又自動車(株)
 (株) 北原防災
 キッコマン(株)
 キッセイ薬品工業(株)
 杏林製薬(株)
 興和(株)
 協和醗酵工業(株)
 キリンファーマ(株)
 グラクソ・スミスクライン(株)
 クラシエ製薬(株)
 クラシエ薬品(株)
 京成建設(株)
 小太郎漢方製薬(株)
 (株) 小山商会 千葉営業所
 佐藤製薬(株)
 サノフィアベンティス(株)
 (株) サラト
 沢井製薬(株)
 参天製薬(株)
 (株) サンリツ
 (株) 三和化学研究所
 (株) 志学書店
 シェリング・プラウ(株)
 塩野義製薬(株)
 白鳥製薬(株)
 (株) 正文社
 ゼリア新薬工業(株)
 第一三共(株)

大正製薬(株)
 大日本住友製薬(株)
 大鵬薬品工業(株)
 タカイ医科工業(株)
 武田バイオ開発センター(株)
 武田薬品工業(株)
 田辺三菱製薬(株)
 (株) 千葉銀行
 (株) 千葉京成ホテル
 千葉中央会計事務所
 千葉日産自動車(株)
 中外製薬(株)
 (株) 銚子丸
 (株) ツムラ
 帝人ファーマ(株)
 テルモ(株)
 トリアエイヨー(株)
 (株) 東葛幸文堂
 東京海上日動火災保険(株)
 財団法人 同仁会
 東和薬品(株)
 富山化学工業(株)
 鳥居薬品(株)
 (株) ナリコー
 成田山新勝寺
 ニプロファーマ(株)
 日興コーディアル証券(株)
 日本イーライリリー(株)
 日本化薬(株)
 日本ケミファ(株)
 日本新薬(株)
 日本製薬(株)
 日本臓器製薬(株)
 日本たばこ産業(株)
 日本ペーリンガーインゲルハイム株
 ノバルティスファーマ(株)
 バイエル薬品(株)
 (株) パイオニア

萬有製薬(株)
 ファイザー(株)
 (株) 富士フィルムメディカル
 扶桑薬品工業(株)
 プリストル・マイヤーズ(株)
 (株) ほてい家
 ホテルグリーントワー幕張
 ホテルニューオータニ幕張
 マイラン製薬(株)
 丸石製薬(株)
 マルホ(株)
 丸万壽司
 三井住友海上火災保険(株)
 (株) ミノファージェン製薬
 明治製薬(株)
 持田製薬(株)
 (株) ヤカルト
 山崎製パン(株)
 (株) ヤンセンファーマ
 ロート製薬(株)
 ワイス(株)
 わかもと製薬(株)
 千葉大学医学部附属病院
 臨床医学研究助成会

医学部後援会

浅井 俊治 安達 哲夫
 新井 英雄 有里 敬代
 飯田 豊 飯田 義三
 井窪 保彦 池内 英男
 石神 博昭 石田 和弘
 和泉みどり 伊東 龍也
 井上 憲二 井福 正博
 岩花久仁子 海村 昌和
 大橋 茂 太田 昌男
 大庭 恵 緒方 一
 岡本 弘子 奥山 広明
 小野 文雄 小谷野 信

小林 洋一	笠間 昭彦	片岡 清	勝俣 賢二	加藤 誠	金子 浩一	上川床 総一郎	川端 基彦	菊池 敏美	北爪 秀政	木下 富夫	工藤 琢也	熊谷 武久	蔵田 昌子	黒川 道徳	小曾根 卓朗	後藤 喜章	小関 洋男	小西 敏郎	小埜 清	酒井 雄一	櫻井 茂	佐藤 千鶴	佐藤 恒明	下平 坦	鈴木 壽郎	須賀 秀晃	杉浦 英一	泉水 卓	高浦 和彦	高橋 修	高橋 恒雄	竹本 勝己	田島 啓二	田中 清七	塚田 俊行	坪井 良真	富永 庸平	豊田 弘	豊田 浩史	永井 玉枝	中川 康	中川 徹亮	名倉謙二郎	東ヶ崎 邦夫	日野修一郎	平山 敏雄	広沢 邦浩	廣瀬 俊夫	藤井 康史	藤田 邦臣	堀井 宏志	前田 雅治	松岡 才二	松田 一男	松村 雅生	三田 信明	武藤大二郎	森 豊	山田 雄一	山本 幸一	与儀 実久	吉井 仁実	与芝 雅之	吉澤 尚嗣	与芝 真彰	若松 英彦	協田 正実	和田 正英	医学部後援会
昭15	田中 洋	同窓会員	清水 富雄	堀江 寛	千葉大医・旧助手会	事務部	谷澤 徹	病理科	馬杉 綾子	計良 和範	循環型地域医療連携システム学	環境影響生化学	鈴木 敏和	吉田 政高	神経生物学	山口 淳	久保 武一	薬理学	坂下 育美	発生生物学	川内 大輔	室山 優子	免疫発生学	細川 裕之	岩村 千秋	山下 政克	救急集中治療医学	仲村 将高	放射線医学	川田 哲也	細胞分子医学	宮城 聡	臨床分子生物学	武川 寛樹	総合診療部	大平 善之	先端和漢診療学寄附講座	関矢 信康	地野 充時	久永 明人	循環型地域医療連携システム学	馬杉 綾子	計良 和範	病理科	谷澤 徹	千葉大医・旧助手会	事務部	清水 富雄	堀江 寛	昭15	田中 洋																		
昭16	渡邊 彦憲	薬丸比呂志	倉田 博夫	横江 康夫	昭17	浦野 英夫	森島 猪二	橋本 孝平	藤江 寛忠	水間 正冬	専17	吉田 芳樹	昭18	梶山 豊	佐藤 進一	竹蓋 莊一郎	田中 進	専18	川辺 敏	山崎 康弘	山田 悦朗	来仙 隆	昭19	井出源 四郎	北澤 幸夫	清水 衛	野際 英雄	平形 義人	専19	池 二郎	村島 正博	山崎 衛	昭20	長田 浩	草間 隆	近内 康夫	横地 尚	渡邊 昌平	専20	今島 浩	久保田 亨一	鶴澤 壽	勝呂 安	昭21	石原 眞	大磯 英雄	郡山 春男	国井 光智	齋藤 豊一	佐藤 壹三	中島 浩二	萩野 裕	古江 増蔵	三宅 和夫															
昭22	石郷岡 寛	神山 英明	清水 健三	千田喜久雄	新田 実男	信藤 羊一	福島 溪二	茂又 眞祐	昭23	板垣 修造	一色 重義	伊東 和人	上野 高次	福山 正臣	幡野 永由	中村 彰	中村 精男	徳政 義和	土田 功一	鈴木 一郎	霜島 正雄	河野 正賢	下坂 正次郎	河野 文雄	奥野 文雄	岡田 宏一	大橋 平治	神山 一郎	阿部 忠夫	井上 幸万	大濱 博利	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫	石郷岡 寛	神山 英明	清水 健三	千田喜久雄	新田 実男	信藤 羊一	福島 溪二	茂又 眞祐	昭23	板垣 修造	一色 重義	伊東 和人	上野 高次	福山 正臣	幡野 永由	中村 彰	中村 精男	徳政 義和	土田 功一	鈴木 一郎	霜島 正雄	河野 正賢	下坂 正次郎	河野 文雄	奥野 文雄	岡田 宏一	大橋 平治	神山 一郎	阿部 忠夫	井上 幸万	大濱 博利	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫	
昭24	石谷 治彦	大林 泰	石谷 繁夫	渡辺 兼司	中山 重男	水沼 三郎	竹之内 弘	下野 武	島田 光重	円城寺 栄	石毛 義治	相磯 敬明	専25	葛田 瑞世	畑 徹	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫	昭24	石谷 治彦	大林 泰	石谷 繁夫	渡辺 兼司	中山 重男	水沼 三郎	竹之内 弘	下野 武	島田 光重	円城寺 栄	石毛 義治	相磯 敬明	専25	葛田 瑞世	畑 徹	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫				
昭26	森川 二朗	山崎 義人	渡辺 武夫	横山 宏	阿部 定生	石井 邦夫	大倉 淳男	武井 稔	西宮 脩	柳澤 文憲	吉田 敏郎	大和 隼	渡部 士郎	大沢 弘和	津村 澄雄	平川 達	昭26	荒木 一	若杉幹太郎	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 辰一	青木 三郎	壬生倉 勝	石橋 源三	磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫												
昭27	阿部 忠夫	有田 文章	井上 幸万	大濱 博利	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫	昭27	荒木 一	若杉幹太郎	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 辰一	青木 三郎	壬生倉 勝	石橋 源三	磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫																					
昭28	秋山 龍男	石川 佳夫	高橋 宣光	滝口 光雄	中野 政雄	富田 裕	十束 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫	小林 茂	貴家 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男	秋元 駿一	秋元 駿一	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫	昭28	秋山 龍男	石川 佳夫	高橋 宣光	滝口 光雄	中野 政雄	富田 裕	十束 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫	小林 茂	貴家 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男	秋元 駿一	秋元 駿一	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫				
昭29	飯塚 正章	山口 慶三	船橋 茂	杉山 仲子	西原源太郎	桑原 久	小野清四郎	上原すゝ子	庵原 昭一	海老原 一	加藤 繁夫	香田 真一	辻 輝藏	船橋 茂	山口 慶三	昭29	荒木 一	若杉幹太郎	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 辰一	青木 三郎	壬生倉 勝	石橋 源三	磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫													
昭30	飯塚 正章	山口 慶三	船橋 茂	杉山 仲子	西原源太郎	桑原 久	小野清四郎	上原すゝ子	庵原 昭一	海老原 一	加藤 繁夫	香田 真一	辻 輝藏	船橋 茂	山口 慶三	昭30	荒木 一	若杉幹太郎	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 辰一	青木 三郎	壬生倉 勝	石橋 源三	磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫													
昭31	飯塚 正章	山口 慶三	船橋 茂	杉山 仲子	西原源太郎	桑原 久	小野清四郎	上原すゝ子	庵原 昭一	海老原 一	加藤 繁夫	香田 真一	辻 輝藏	船橋 茂	山口 慶三	昭31	荒木 一	若杉幹太郎	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 辰一	青木 三郎	壬生倉 勝	石橋 源三	磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫													
昭32	飯塚 正章	山口 慶三	船橋 茂	杉山 仲子	西原源太郎	桑原 久	小野清四郎	上原すゝ子	庵原 昭一	海老原 一	加藤 繁夫	香田 真一	辻 輝藏	船橋 茂	山口 慶三	昭32	荒木 一	若杉幹太郎	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 辰一	青木 三郎	壬生倉 勝	石橋 源三	磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	廣田 和俊	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	阿部 忠夫	有田 文章	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大原 一夫													

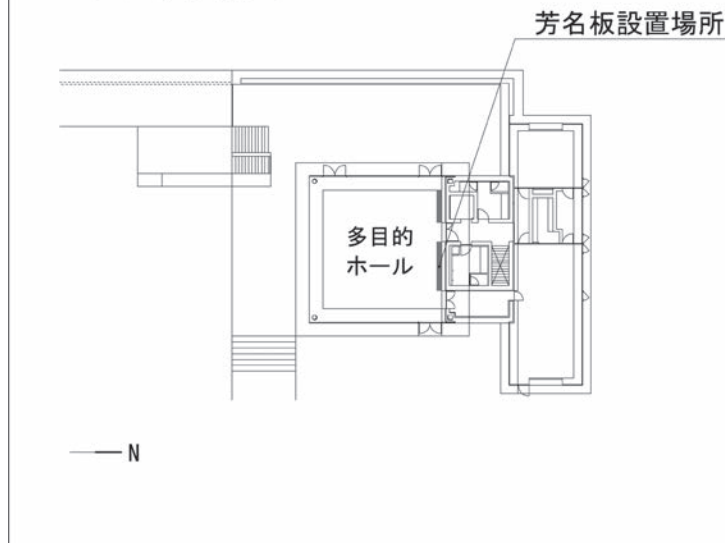
坂田 倉持 遠藤 植田 赤星 昭34 吉田 檜垣 林 長崎 辻 高木 清水 石川 佐藤 近藤 小林 加藤 小高 岡本 宇野 磯野 石川 相原 昭33 依田 村上 前田 福田 林 野口 夏目 戸川 竹内 高橋 齋藤 柏木 石川	早苗 正昭 幸男 仲夫 至朗 貞利 有徳 國春 護 陽雄 學治 文七 美智子 俊一 延年 直幸 達也 可一 恭子 茲明 勇二 和 昌利 陽 達幸 照義 隆一 清 達 清 柳子 幸洋 登	塩川 齋藤 春日 植村 石川 御子 柴幸男 谷川 章子 新美 仁男 土井 倅 菅谷 健彦 嶋田 俊恒 椎名 益男 花岡 建夫 小林 美子 金子 勇 小形 岳三郎 小野 寺美津雄 鈴木 益允 中田 益允 佐藤 重通 佐藤 重明 佐藤 重明 河野 秀三 北方 勇輔 海保 允 岡村 隆夫 市村 公道 雨宮 浩 横山 宏 藤田 陽 藤田 陽 平嶋 昌三 野本 昌三 西村 忠雄 中村 常太郎 谷川 久一 高橋 英世 仙波 恒雄 三枝 一雄 大久保 恵司	白石 齊藤 近藤 黒田 栗原 川村 加藤 小野 岡田 新井 昭36 山崎 村松 三橋 眞島 堀田 長谷川 中田 鈴木 佐藤 佐藤 柁原 河野 北方 海保 岡村 市村 雨宮 昭35 横山 山口 矢野 矢崎 原沢 野口 津金澤 高木 清水 順三郎	鈴木 青木 今野 吉永 栗原 北原 川村 加藤 小野 岡田 新井 昭36 山崎 村松 三橋 眞島 堀田 長谷川 中田 鈴木 佐藤 佐藤 柁原 河野 北方 海保 岡村 市村 雨宮 昭35 横山 山口 矢野 矢崎 原沢 野口 津金澤 高木 清水 順三郎	谷 高野 佐藤 畔田 栗原 北村 大和田 大木 穴沢 浅野 昭38 綿引 油井 山本 柳沢 森 堀口 藤森 原田 中山 瀬川 杉岡 斎藤 黒岩 小野 安達 伊藤 石山 昭37 吉野 山崎 松本 淵上 福山 中島 谷口 瀧澤 鈴木 一光	十河 玉置 蘭部 香西 黄田 金城 加藤 大津 木下 安達 浅野 昭38 綿引 油井 山本 柳沢 森 堀口 藤森 原田 中山 瀬川 杉岡 斎藤 黒岩 小野 安達 伊藤 石山 昭37 吉野 山崎 松本 淵上 福山 中島 谷口 瀧澤 鈴木 一光	漆原 遠山 青木 昭40 山本 山下 矢島 村上 万本 平形 那須 塚田 高根 鈴村 白井 重松 坂田 今野 古謝 角張 小野 大森 大河 飯田 阿部 秋草 昭39 若新 宮治 緑川 三木 藤本 林 野本 中田 寺嶋 楢 二郎	海老 今津 天海 米満 山下 山口 本村 三浦 深尾 原 永山 千葉 高沢 鈴木 白井 重松 坂田 今野 古謝 角張 小野 大森 大河 飯田 阿部 秋草 昭39 若新 宮治 緑川 三木 藤本 林 野本 中田 寺嶋 楢 二郎	渡辺 鎗田 溝口 福田 半澤 中村 飯田 田中 竹内 高橋 鈴木 島田 里村 三枝 小林 菊池 若新 大塚 飯島 天羽 昭41 渡邊 山田 柳沢 武者 服部 野口 長尾 角田 竹内 高野 曾野 島 辛 小鳥 小澤 大木	渡辺 竜 安江 御園 平澤 市川 中島 塚本 竹島 高山 鈴木 白濱 塩沢 佐々木 小林 桑木 神谷 落落 飯島 王子 飯島 新井 天羽 昭41 渡邊 山田 柳沢 武者 服部 野口 長尾 角田 竹内 高野 曾野 島 辛 小鳥 小澤 大木	土田 玉井 滝川 諏訪 鈴木 佐野 佐藤 神津 久野 北原 唐澤 梶尾 小澤 網代 伊藤 磯村 赤尾 青木 昭43 渡辺 林 守屋 森田 藤田 平賀 比嘉 服部 鍋島 中島 内藤 高部 谷口 更科 勝俣 関 伊藤 関 昭42 三 千 代	鳥居 彌幸 田代 高山 鈴木 宿谷 正毅 佐藤 文彦 斎藤 弘司 小山 栗山 川村 加藤 鹿島 太田 岩間 西島 東山 高良 須藤 篠原 神津 窪田 高橋 加部 奧村 遠藤 石渡 飯塚 浅野 昭44 横堀 竜 盛 堀川 星野 藤原 高岡 中嶋 鳥居 敏明	伊藤 文二 憲二 家里 憲二 新井 裕二 和泉 佳子 松清 央 堀井 文千代 舟橋 満寿子 藤塚 光慶 中村 宏 仲尾 清 高田 邦子 藤塚 光慶 中村 宏 仲尾 清
--	--	---	---	--	---	--	---	---	---	--	--	---	---

川村ひろみ	久田俊和	浜崎智仁	中村欽哉	谷口環子	高橋誠	河村和子	杉本和夫	小林弘忠	結束温	木口博之	神崎頼仁	磯部洋子	加来俊貞	大森耕一郎	内田朝彦	今田屋章	千葉幸恵	昭46	渡部十九六	吉田光宏	湯原幹男	宮原弘次	古川隆男	平山博久	花輪孝雄	橋本英明	永岡喜久夫	中野義澄	天神弘尊	千見寺勝	高橋長裕	住吉徹是	杉山吉克	腰塚格	木村邦夫	榎本正満	細山公子	
船津恵一	平野和哉	濱野頼隆	丹羽有一	田畑陽一郎	多賀谷茂	高瀬学	鈴木直人	櫻井幸弘	大川昌権	久保木正夫	木澤庸一	金田隆司	門井隆司	荻原奉祐	大友一夫	牛嶋二郎	高瀬直子	昭46	渡部十九六	渡辺義二	与儀裕	向井将	榎本純子	宮園千代子	林泰	長谷川毅	野田宏子	中山章	伴野悠士	寺澤捷年	滝沢淳	高橋正年	菅ヶ谷純弘	堺常雄	黒田重史	北島忠昭	梅津亮二	
小林道生	河野陽一	片桐博子	君塚五郎	金塚順二	笠貫順二	小川富雄	大内美南	上村重明	岩本逸夫	上村加代子	一木昇	昭48	脇坂正美	力武知之	松川正明	西野卓	長尾啓一	中嶋征男	若山曜子	相馬光弘	鈴木光二	菅野勇	栗原正	菊池友允	河西九三	岡信男	大野一英	榎本貴夫	稲葉憲之	石川詔雄	昭47	与那嶺和子	山室美砂子	三浦利重	保阪善昭	文隆雄		
後藤澄雄	小林健一	高圓博文	木村秀樹	木内信二	兼坂俊章	小川清	大場敏明	梅田透	上野正純	猪股弘明	岩田泰子	旭俊臣	昭48	渡辺滋	若山芳彦	山森秀夫	檜垣進	西川哲男	中村和郎	唐司則之	田井東風	鈴木信夫	勝呂徹	真山和徳	北沢栄次	加藤誠	尾形実	大西久仁彦	大岩孝司	宇津見和郎	伊藤文憲	徳久剛史	高安賢一	吉田孝宣	矢端幸夫	柳橋京子	保坂瑛一	
上田志朗	麻生誠二郎	秋葉哲生	昭50	渡辺順子	森川眞一	渡辺博子	長谷川純	西山眞理子	中村文子	田町誓一	田中眞	武井泉	鈴木亮二	五月女直樹	菊地紀夫	金子作蔵	入江澄子	岩津都希雄	有田正明	青柳光生	昭49	横山淳一	山路政彦	守田政彦	保高由美子	前川岩夫	千見寺徹	野口哲夫	灘岡壽英	中村明	徳久剛史	高安賢一	早乙女勇	鈴木晴彦	坂口明			
大塚裕	入江氏康	秋谷徹	昭50	弓削一郎	三上恵只	鳩貝文彦	野村恭子	西山裕孝	土佐純一	田辺政裕	田中善治	高原善治	佐藤武幸	木村純	田辺恵美子	片桐誠	江原正明	石神博昭	浅井隆善	青柳光生	昭49	山本義一	森山紀之	南昌平	保阪重莉沙	千見寺ひろみ	野村馨	内田宏子	永山洋子	内藤威	千葉次郎	高島常夫	鈴木洋文	須崎勢至	佐藤展将			
昭52	由佐俊和	松村勉	蒔田国伸	布施秀樹	林春幸	中山朝行	高橋和久	佐藤兼重	坂本薫	児島孝行	黒崎知道	門山周文	小野和則	小野純一	大塚芳克	井坂茂夫	秋田徹	赤嶺正裕	昭51	山本博憲	山岸文雄	村野俊一	松谷和徳	増田政久	野積邦義	登坂薫	小林けい子	中尾照逸	戸塚清一	高林克己	勝呂慶子	篠遠彰	佐伯直勝	後藤信昭	木村道雄	河内文雄	上村公平	大森景文
昭54	渡邊浄	若林正治	吉原俊雄	吉澤卓	山上岩男	塚田純子	花岡明宏	中村弘	得丸幸夫	寺井勝博	武永文晴	鈴木文晴	小林敏生	石川てる代	荻野幸伸	織田成人	遠藤和男	上野泉	伊藤公道	安徳純	昭53	山田善重	湊明	松岡和夫	堀部薫	福田薫	檜前薫	中山大典	中沢肇	高橋敏信	須田啓一	小林純	久保田浩一	北澄忠雄	香村衡一	尾崎正彦	稲田晴生	五十嵐辰男
中村広志	友利秀憲	道永麻里	鈴木裕子	繁田美香	川副泰成	加藤邦彦	小川利隆	伊藤博	足立武則	昭56	湯口恭利	前田勝久	水見寿治	蓮沼桂司	野田和男	永井將道	十川康弘	須藤義夫	柴橋博之	栗原和男	神崎哲人	雄賀多聡	有我隆光	昭55	吉田弘道	福田幾夫	中村眞人	鶴田好孝	田川雅敏	鈴木良一	杉浦信之	篠遠仁	小林繁樹	萬仲子	石毛俊行	五十嵐忠彦		
永島薫	中島一彰	武内重康	瀧口正樹	清水俊行	座間秀一	亀井克彦	笠松紀雄	岡陽一	伊藤隆	昭56	羅智靖	宮崎三忠	藤田京子	水見尚武	橋本尚武	長島通	鳥居俊男	砂田莊一	杉原茂孝	潮平芳樹	久木田親重	植松武史	長雄一	昭55	渡辺恒家	宮本恒彦	林北見	宮崎泉	巽浩一郎	高野正一	杉田克生	下条直樹	近藤福雄	小林進	今関文夫	伊澤英次		
桑原聡	奥脇治郎	岸智彦	市川雅彦	赤倉功一郎	昭59	森田昌男	丸山浩	武城英明	日野剛	長門義宣	田中裕一	滝口俊英	鈴木俊英	平井真紀子	今田進	加藤雄一	池田政文	昭58	山西友典	守月理	幡野雅彦	角田隆文	酒井直美	角谷明子	島田真彦	下山真彦	小森功夫	小川眞	ピアス洋子	天野穂高	昭57	湯山琢夫	三浦正義	松村竜太郎	福武敏夫	松本俊一	長谷川潔	
幸田圭史	小野崎郁史	岡本雅臣	磯野史朗	山本修一	宮副明	星岡明	深沢元伸	豊崎哲也	西村和幸	田島和幸	高木一也	品田良之	近藤克則	亀山伸吉	石川信泰	和久真一	山口敬芳	古川清吾	丹沢秀樹	龍野一郎	白澤直人	篠崎克己	川島利彦	大嶺直路	岩井直路	吉川正治	森永哲文	松村千恵子	堀内啓	福井博行	馬場章							

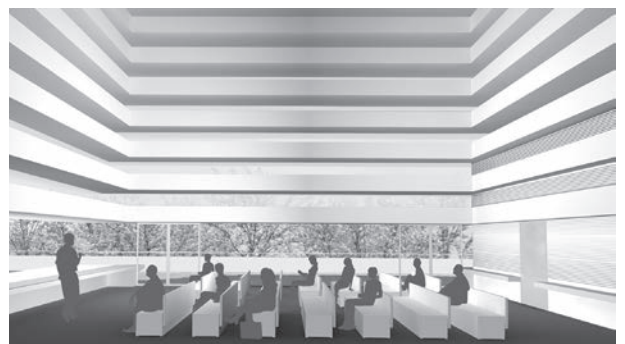
村松	松永	林	西脇	長門	寺内	園田	沢田	木村	金田	片橋	小田	伊藤	石井	安達	昭61	保元	森嶋	林	鍋谷	豊根	田邊	坂井	興村	木元	北川	佐藤	石島	有田	阿部	昭60	持田	光永	星野	西島	露口	高梨	下山
康二	保	偉明	哲二	文字	隆司	昌毅	貴志	直弘	庸一	立秋	健司	宏文	浩	智江		明彦	友一	秀樹	圭宏	知明	信宏	誠一	義孝	正史	憲一	典子	秀紀	洋右	恭久	晃	伸一郎	育男	由美	利夫	一紀	惠美	
村松	三浦	古谷	萩原	西村	中澤	高谷	須藤	佐藤	菊地	加藤	香川	今牧	石井	有田	吉野	内田	石井	青木	並木	堂垂	豊沢	鈴木	古口	窪田	北崎	菊野	岡田	五十	安蒜	渡辺	村井	松原	藤本	中川	高橋	高石	
俊範	信之	雄三	雅司	美樹	亨	美成	知子	晴彦	浩之	直也	晃太郎	瑞浦	光子	誠司	薫	郁	幸正	隆雄	仲治	忠	忠	昌彦	徳雄	等	薫	朝志	朝志	裕章	聡	和義	尚之	久裕	肇	宏治	弦	聡	
金	菊池	植田	平元	渡部	横手	村岡	丸	松井	仲野	中世	白井	佐藤	小林	金井	柿沼	内田	石井	青木	昭63	遊座	安原	松江	佐藤	二宮	田島	鈴木	新見	佐藤	三枝	呉	熊谷	朝比奈	江畑	秋元	青江	昭62	結城
民世	周一	健		良夫	幸太郎	秀樹	泰司	芳文	公一	古知昭	よんえ	正俊	欣夫	文彦	由彦	佳孝	秀始	俊郎	潤	晃一	弘之	さゆり	康夫	正人	正人	将泰	直秀	敬史	青洋	匡也	真由美	龍樹	英里	知彦	崇夫		
佐粧	北村	大森			渡辺	茂木	三木	松下	中村	徳山	杉浦	獅子	小松	黒須	笠原	宇野	石川	安達		山口	松永	福田	野首	中馬	関川	菅谷	志賀	佐々木	今野	小山	加藤	坂本	青柳	渡辺	啓治		
孝久	仲哉	繁成			絵里	健司	隆司	一之	伸一郎	竜彦	敏之	尚也	克志	靖紀	靖紀	隆	輝彦	佳宏		浩史	正訓	浩之	光弘	敦	敏彦	啓之	英敏	一	慎	秀彦	大介	明美	正彦				
平4	三池	松本	宍倉	中島	諏訪	清水	斎藤	小島	倉持	石塚	市川	早川	平3	丸山	中川	高柳	鈴木	佐藤	五月	川名	岡本	小風	太田	安藤	平2	宮内	皆川	志賀	平栗	濱野	中島	知久	高瀬	須藤	鈴木	真田	
	聡	伸行	めぐみ	光一	信一	公一	雅彦	博之	宏明	仲子	千秋	睦		紀史	晃一	建志	淳也	宏	隆	秀忠	和久	晃	真	策郎	英聡	真規	真樹	徹	雅樹	文毅	毅	完	真児	実	昌彦		
			土井	二村	福山	白鳥	鹿間	小林	小島	草塩	今井	天野		湯浅	藤井	田中	鈴木	清水	佐藤	木下	勝見	岡田	大淵	石川	八木	南野	船橋	原木	花澤	手塚	田垣	関根	須関	杉戸	一寿		
			茂治	静子	郁修	享	毅	弘一	広成	公彦	直樹	晋		讓治	克則	保彦	洋人	栄司	悟郎	知明	明	吉弘	和弘	文彦	毅典	徹	伸慎	真名	豊行	健太郎	祐吾	郁夫	馨				
武田	陣内	神作	伊藤	平7	吉田	丸田	大門	宗	齋藤	香西	門野	小高	大鳥	鶴飼	平6	増田	藤本	深町	花岡	徳永	関谷	鈴木	岸	天野	平5	吉田	矢花	三橋	町田	樋口	貞広	阪井	小泉	奥山	梅澤	阿部	
真一	彦良	憲司	彰		元	哲郎	雅夫	永元	武	由美子	源一郎	謙一	精司	伸一	真一	善英	唯博	英紀	進	武司	陽一	宏久	景治	克彦	孝文	繁	繁	南海男	佳則	智仁	守	健一	恭子	正美	公一	雄造	
野村	竹内	木原	金子			水鳥	松尾	高森	諏訪	河野	黄	笠川	唐木	碓井		本橋	福田	原	中村	奥	杉本	坂尾	太田		山本	谷嶋	三橋	獅子	高瀬	櫻井	小宮	加藤	遠藤	井上	石井		
知弘	男	真紀	透子			俊夫	幸治	尉之	靖	世章	舜範	隆玄	千穂	安和		新一郎	和司	佳奈子	晃	佳代	克己	誠一郎	詔	正二	隆之	修	原薫子	一嘉	健一	健一	里絵	恒宏	淳	徹			
矢野	宮本	松浦	西村	木下	上原	岩田	平11	溝口	照井	大森	窪田	平10	吉田	日暮	外岡	多田	鈴木	河野	沼田	富田	伊豫	平9	平野	菱	玉井	豊田	小倉	岡田	天野	浅井	平8	横張	宮内	松本	細井	橋本	服部
浩二朗	牧	玄	基	香	七生	剛和	剛和	雅子	慶太	佳子	仲矢	一也	真由美	亨	素久	修一	千代子	理	美佳	稔	稔	好絵	るか	恒憲	玲子	尚子	佳子	利大	利大	賢司	秀行	桂子	郁芳	光宏	太郎		
吉住	森	三澤	所知	清水	岡本	上原	上原	伊藤	藤井	窪田	愛波		田中	日暮	田宮	多田	照井	星山	河村	志田	和	平野	豊田	千葉	川名	岡本	井上	阿部	阿部	村田	溝	前田	東	松井			
博明	有紀	園子	加子	秀文	明子	淳太郎	淳太郎	彰一	朋子	真理子	淳子		政道	浩実	亜堂	弘子	エレナ	瑠	治清	崇	暁彦	剛	智彦	哲博	有紀子	英輝	博	敦	敦	勝宏	輝明	仁士	守洋	由紀子			
片桐	平20	山川	佐藤	平19	野村	田所	高市	金井	平18	渡辺	仙波	平17	山本	杉山	岡山	有川	平16	宮城	野口	土居	高橋	上原	平15	吉井	清水	上野	平14	中村	岩澤	平13	森谷	榎木	椎名	長谷川	平12		
諒子		貴菜	明男	亮太	亮太	重紀	麻貴	慎一	美佳	宏章	美佳	憲子	雅彦	大	俊輔	正行	厚夫	綾香	厚夫	宏	宏	孝紀	淳	淳	高	高	順一	忠之	真理	純治	直文	明大	宏美	幸部	步		
武内		吉村	武藤		渡邊	永井	高本	齊藤		高瀬		松木	片桐	花岡	内野	山	高柳	新津	花岡	高柳	鈴木			半田	嶋	櫻井	李	櫻井	太和	藤尾	野口	立石	吉原	幸部	吉郎		
祥子		健佑	剛		大智	勝也	真己子	景子		正幸		悟志	明	大資	康志	俊作	俊作	富央	大資	俊作	俊作	一郎	聡	聡	謙一郎	隆之	隆之	隆之	隆之	正道	和子	美香	順久	晋太郎	吉郎	步	
芦野	遺伝	石川	脳神経	山中	柿栖	石渡	眼科	桑木	代謝	小平	神経	田那	診断	橋爪	清水	呼吸	伊賀	麻酔	佐藤	法医学	安戸	羽田	関根	荻野	森	熱海	環境	北原	井上	岩澤	森谷	榎木	椎名	長谷川	平21	松岡	
洋美	子生	徹	外科	三代	米次	東海	学	共之	生理学	昌	生物学	宏	病理学	一光	栄	器内	恵美子	学	彌生	医学	一皓	明	憲治	彰	千里	佐保子	生命	原	雄元	真理	純治	直文	明大	宏美	幸部	步	
岩瀬		永野	渡部	高綱	大原	むつ				小林	中谷	行雄		宮崎	瑞明	高世	茂谷	久子				水野	竹腰	小山	門田	門田	能川	能川	木内	櫻井	野口	立石	吉原	吉郎	吉村	晶子	
克郎		修	美博	陽子	陽子					賢二						光世	久子					武昭	昌明	虎信	朋子	夏生	浩二	浩二	夏生	美博	美博	美博	美博	美博	美博	美博	美博

腫瘍病理学 北川 元生 張ヶ谷健一	泌尿器科学 古木 新 三方 一澤	石引 雄二 梶本 伸一	茂田 安弘 鈴木 文雄	富岡 進 角谷 秀典	真鍋 博 角谷 秀典	病原分子制御学 野田 公俊	薬理学 井上 優 木内 夏生	門田 健 中谷 晴昭	感染生体防御学 野呂瀬一美 青才 文江	守 正英	分子生体制御学 木村 定雄	細胞治療内科学 池上 智康 風戸 豊	小林 淳二 齋藤 康	清水 公子	臓器制御外科学 鈴木 啓之	皮膚科学 黒田 啓 伊藤 文子	佐藤 千鶴	分子病態解析学 米満 博	形態形成学 年森 清隆 豊田 二美枝	外山 芳郎 森山 行雄	発生生物学 齋藤 哲一郎	動物病態学 伊勢川直久	生殖機能病態学 小野寺 勉 葛田 憲道	小児 章弘 芳野 春生 生水真紀夫	遺伝子制御学 中島 裕史 宮武昌一郎	分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大	免疫発生学 中山 俊憲	小児病態学 阿部 博紀 花城恵美子	阿部 博紀 金澤 正樹	太田 節雄 上林 直子	川上 武子 露崎 俊明	多田 裕司 渡辺 福	渡辺 福	整形外科学 小野崎 晃 篠原 寛休	鈴木 弘祐 武内 重樹	田波 秀文 土屋 恵一	渡辺英一郎 耳鼻咽喉科学	岡本 美孝 鎌田慶市郎	亀谷 秀夫 小関 洋男	橋 昌孝 寺田 修久	山越 隆行 三橋 麗子	腫瘍内科学 足立 公代 宇野沢隆夫	奥田 桂子 越後貫道子	川島柳太郎 久原 厚生	小林千鶴子 佐久間 淳	及川 貞 須田 恵	多田 式江 寺田 洋臣	馬場 勇次 日暮 協	矢沢 孝文 米満 裕	伊藤 俊夫	精神医学 山下 忠文	放射線医学 荒居 龍雄	遠山 富也 中村 修	呼吸器病態外科学 恒元 博 吉野 一郎	細胞分子医学 岩間 厚志 太田 要生	循環病態医科学 江原 和枝 小室 一成	杉林 昭男 元山 妙子	宮内 郁枝 諸岡 信裕	臨床分子生物学 石山 信之 鵜澤 一弘	内山 清春 大木 保秀	小河原克訓 小野 可苗	木村 孝雪 工藤 逸郎	大川 和子 坂本 洋右	佐藤 匡司 椎葉 正史	嶋田 健 翠川 鎮生	盛永 智子 横江 秀隆	先端応用外科学 伊賀 浩 海宝 雄人	久保田 亨 佐久間洋一	篠原 靖志 神宮 和彦	原田 昇 牧野 治文	元山 逸功	生命情報科学 田村 裕	心臓血管外科学 松宮 護郎	手術部 飯寄 奈保	総合診療部 生坂 政臣	薬剤部 大森 栄 北田 光一	先端和漢 笠原 裕司	43クラス会	たのほな同窓会
-------------------------	------------------------	----------------	----------------	---------------	---------------	------------------	----------------------	---------------	---------------------------	------	------------------	--------------------------	---------------	-------	------------------	-----------------------	-------	-----------------	--------------------------	----------------	-----------------	----------------	---------------------------	-------------------------	--------------------------	-------------------------	----------------	-------------------------	----------------	----------------	----------------	---------------	------	-------------------------	----------------	----------------	-----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	-------------------------	----------------	----------------	----------------	--------------	----------------	---------------	---------------	-------	---------------	----------------	---------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------	----------------	---------------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	--------------------------	----------------	----------------	---------------	-------	----------------	------------------	--------------	----------------	----------------------	---------------	--------	---------

平面簡略図



七葉会(専25)
五窓会(専23)
八千会代表大沢弘和(専26)
葉々会
昭和61年卒同窓会
矢作会代表永野俊雄(昭30)
西千葉医師の会



多目的ホール内イメージ

新るのほな同窓会館イメージ

るのほな同窓会賞受賞候補者募集要項

第十七回(二〇一二年)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者

①学術賞 本会員で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。

②功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学のほな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

①学術賞(三件以内) 盾および副賞(総額二百万円以内)を贈呈します。

②功労賞(三件以内) 盾および薄謝を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一二年十二月一日から二〇一二年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一二年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

千葉医学雑誌 87 巻 5 号 2011 年 10 月

原 著

Studies on the amounts of serum hydroperoxide, MMP-3, urinary 8-OHdG, and salivary IgA in rheumatoid arthritis patients who experienced Shinrin-yoku (forest-air bathing and walking)
Shigeru Sugaya, Tamami Kasetani, Zhong Qiu-Ji, Wen Zhi Guo, Akikazu Udagawa, Jun Nomura, Katsuo Sugita, Reiko Ohta and Nobuo Suzuki
Cytotoxicity of tap and first-class-river water in eastern Japan
Qian Ren, Xia Jiang, Shi-Ping Chen, Masataka Yoshida
Xiao-Bo Tong, Wen-Zhi Guo, Toshikazu Suzuki, Shigeru Sugaya
Takeshi Tanaka, Kazuko Kita and Nobuo Suzuki

症 例

ER 型救急外来における外科症例の検討 木下弘壽 中森知毅
回腸原発の小児悪性リンパ腫による腸重積の手術例 藤城 健 黒田浩明 篠原靖志 牧野治文
千葉 聡 坂本昭雄 松原久裕

千葉医学会賞

アレルギー発症を制御する Th2 細胞の分化と機能維持のエピジェネティクス 山下政克
P53 依存性老化シグナルと生活習慣病 南野 徹

千葉医学会奨励賞

プロテオミクスを用いた神経免疫疾患活動性マーカーの網羅的解析 澤井 撰
キネシン分子モーターの 1 分子顕微解析による神経変性メカニズムの解明 - 遺伝性毒性対麻痺を引き起こす分子モーターの変異 - 川口憲治

学 会

第 1217 回千葉医学会例会・平成 22 年度第 10 回千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学教室例会
第 1224 回千葉医学会例会・第 24 回千葉泌尿器科同門会学術集会

編集後記

白澤 浩

千葉医学雑誌 87 巻 6 号 2011 年 12 月

原 著

食道内視鏡的粘膜下層剥離術におけるクリップ牽引法の有効性
上里昌也 赤井 崇 堀部大輔 久保嶋麻里 松永晃直 北林宏之
加賀谷暁子 佐塚哲太郎 竹下修由 丸山哲郎 星野 敢 阿久津泰典
河野世章 白鳥 享 首藤藤彦 青木泰斗 宮崎信一 松原久裕

症 例

An experience with total en bloc spondylectomy of the lumbar spinal tumor - Limitations of a combined posterior and lateral approach -
Miyako Suzuki, Seiji Ohtori, Gen Inoue, Sumihisa Orita, Ywara Eguchi
Yasuchika Aoki, Tetsuhiro Ishikawa, Masayuki Miyagi, Gen Arai, Hiroto Kamoda
Yoshihiro Sakuma, Yasuhiro Oikawa, Go Kubota, Masashi Takaso, Tomokai Toyone
Akimitsu Kuroiwa, Toru Ishizaka, Goro Matsumiya and Kazuhisa Takahashi

話 題

微量放射線被ばくの影響 油井信春
千葉医学会賞 Notch シグナルの分子機構の研究 - Mastermind を中心として - 北川元生
腰椎疾患に対する新規診断方法、薬物療法、手術療法の確立 大鳥精司 高橋和久

千葉医学会奨励賞

BHD 遺伝子異常に起因する多発性肺嚢胞疾患の病理 - 反復性気胸に対する新たな洞察 - 古賀俊輔
320 列マルチスライス CT を用いた循環器疾患の新しい臨床診断の開発 上原雅恵
視神経脊髄炎と多発性硬化症の免疫病態の相違 鶴沢顕之 森 雅裕 桑原 聡

学 会

第 1218 回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学例会
第 1225 回千葉医学会例会・第 44 回麻酔科例会・第 72 回千葉麻酔懇話会

研究報告書

平成 22 年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書 鈴木信夫
第四回(2012 年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について
第五回 ちば Basic & Clinical Research Conference
87 巻総目次・索引

編集後記

鈴木信夫

おくやみ

- 石井 千尋 (日本歯・昭11)
- 浦野 英夫 (昭17)
- 新庄 幸平 (専17)
- 加納 弘 (日本歯・昭18)
- 平賀 久雄 (専19)
- 保坂 俊三 (専20)
- 竹内辰五郎 (昭22)
- 中村 舜二 (昭23)
- 榊原 孝夫 (専23)
- 窪田 敬 (専24)
- 篠崎 誠 (専24)
- 中野邦一郎 (専24)
- 明石 敏彦 (専25)
- 杉田喜久寿 (専25)
- 畑 徹 (専25)
- 酒詰万千雄 (昭26)
- 松岡 真平 (昭26)
- 安村 美博 (昭26)
- 柳澤 文憲 (昭26)
- 加瀬昭一郎 (専26)
- 渡邊 和夫 (昭27)
- 椎名 岩松 (昭医・昭28)
- 広沢 道孝 (昭30)
- 椎名 益男 (昭33)
- 宇田川敏二 (昭35)
- 中島 伸之 (昭36)
- 宮腰 達朗 (昭40)
- 望月 博 (昭40)
- 松村 公人 (昭42)
- 齊藤登喜男 (昭46)
- 稲毛 博実 (昭50)
- 長嶋 敏晴 (昭55)
- 松本 忠男 (昭62)

編集後記

るのほな同窓会報も、また新たな年を迎えました。昨年は東日本大震災と、それに続く福島原発事故があり、つががなく年月が過ぎることのありがたさを痛感いたしました。同窓会報を支えていただいている多くの皆様方にも、今年が良き一年であることをお祈り申し上げます。今年は、るのほな同窓会が中心となつて、千葉大学医学部創立135周年記念事業が取り行われます。その一環として創立

135周年記念誌の発行準備が進められているほか、新るのほな同窓会館も年内には竣工の予定で、るのほな同窓会にとって節目になる一年となるものと思われま

三木隆司(昭63)